

学際基礎科目・人文科学系			
哲学思想史 a		佐野 好則	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>西洋古代中世の哲学思想史を概観する。			
<到達目標>各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。			
<授業の概要>講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。			
<履修条件>学部1，2年を主な対象学年とする。			
<授業計画>			
第1回 哲学の始まり：ヘシオドスの神話的思考からミレトス派の哲学的思考への発展を考察する。 文献：ヘシオドス『神統記』、アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布）			
第2回 タレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス：ミレトス派の自然哲学を考察する。 文献：タレス断片、アナクシメネス断片、アナクシメネス断片(授業内にテキスト配布)			
第3回 ピタゴラス派、ヘラクレイトス、パルメニデス：ミレトス派自然哲学の展開を考察する。 文献：ピタゴラス派断片、ヘラクレイトス断片、パルメニデス断片(授業内にテキスト配布)			
第4回 エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論：パルメニデスの影響下の自然哲学の展開を考察する。 文献：エムペドクレス断片、アナクサゴラス断片、原子論断片(授業内にテキスト配布)			
第5回 ソフィスト達とソクラテス：人間を中心とするソクラテスの哲学とその背景を考察する。 文献：作者不明『両論』、プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』（授業内にテキスト配布）			
第6回 プラトン(1)：イデア論の基盤を哲学諸派との関連に注目して考察する。 文献：プラトン『メノン』、『パイドン』、『国家』（授業内にテキスト配布）			
第7回 プラトン(2)：イデア論の展開を考察する。 文献：プラトン『パルメニデス』、『ティマイオス』（授業内にテキスト配布）			
第8回 アリストテレス(1)：実体論の基盤をプラトンの哲学との関連に注目して考察する。 文献：アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布）			
第9回 アリストテレス(2)：実体論の展開、倫理学を考察する。 文献：アリストテレス『政治学』、『ニコマコス倫理学』（授業内にテキスト配布）			
第10回 ストア派、エピクロス派：ヘレニズム哲学における新しい傾向の哲学諸派を考察する。 文献：ストア派断片、エピクロス『メノイケウス宛の手紙』（授業内にテキスト配布）			
第11回 プロティノス：ローマ時代におけるプラトン派哲学の展開を考察する。 文献：プロティノス『エンネアデス』（授業内にテキスト配布）			
第12回 アウグスティヌス(1)：新プラトン主義の影響を中心に考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『教師論』（授業内にテキスト配布）			
第13回 アウグスティヌス(2)：哲学的諸概念の神学的応用を考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『神の国』（授業内にテキスト配布）			
第14回 アンセルムス、トマス・アキナス：スコラ哲学における哲学諸派の受容を考察する。 文献：アンセルムス『モノロギオン』、トマス・アキナス『神学大全』（授業内にテキスト配布）			
第15回 総括			
<準備学習等の指示>各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。			
<テキスト>テキストとなる各哲学者の著作の抜粋を毎回配布する。			
<参考書・参考資料等>A.H. アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989年 内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006年			
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。			

学際基礎科目・人文科学系		
哲学思想史 b	矢嶋 直規	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 近代ヨーロッパ哲学・倫理学宗教哲学の主要なテーマを、信仰と教会形成をめぐる議論として考察し、キリスト教の思想的理解を深める。		
<到達目標> 近代ヨーロッパにおけるキリスト教の歴史の理論的背景ともいえる主要な哲学思想を単に文化史としてではなく、哲学そのものの学びとして習得する。主要哲学者の理論をキリスト教信仰と関連づけて理解し、それを自身の言葉で説明できるようになる。		
<授業の概要> デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ホッブズ、ロック、バークリ、ハチソン、バトラー、ヒューム、カントなどの哲学・倫理思想をとりわけキリスト教信仰に関連付けて概観する。		
<履修条件> 特にもうけません。		
<授業計画> 第1回 近代哲学概観 第2回 ホッブズの道徳論 第3回 ホッブズの国家論 第4回 ホッブズの宗教論 第5回 ロックの認識論 第6回 ロックの国家論 第7回 ロックの宗教論 第8回 デカルトとスピノザの神概念 第9回 ライプニッツの弁神論 第10回 バトラーの啓示宗教擁護と理神論批判 第11回 バークリとヒュームの認識論 第12回 ヒュームの道徳論 第13回 ヒュームの自然宗教批判 第14回 イギリス経験論へのカントの応答 第15回 まとめ、近代哲学から現代哲学へ 最終試験		
<準備学習等の指示> 毎回の授業の復習に力を入れること。毎回前回の授業についての質疑を行う。		
<テキスト> 毎回の授業の前に配布もしくは指定する。		
<参考書・参考資料等> 宗像 恵 (著), 中岡 成文 (著),『西洋哲学史 近代編—科学の形成と近代思想の展開』、ミネルヴァ書房、1995。 Steven M. Emmanuel, <i>The Blackwell Guide to the Modern Philosophers: From Descartes to Nietzsche</i> (Blackwell Philosophy Guides) 1991.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業では毎回の授業への貢献を60%、小レポートと最終レポートを40%として評価する。		

学際基礎科目・人文科学系		
キリスト教と世界史 a	小宮 正安	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 「ヴンダーカンマー」(珍品収集室／驚異の部屋)を切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学びます。		
<到達目標> ヨーロッパ近世（ルネッサンス、バロック、ロココ）から近代にかけてのキリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を理解できることとします。		
<授業の概要> 近世ヨーロッパを席卷した「ヴンダーカンマー」(珍品収集室／驚異の部屋)の変遷を辿りながら、当時の宗教観や宇宙観について芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜることで、近世から近代にかけてのヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 博物館とコレクションの歴史について 概論 第2回 ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生 第3回 ルネッサンスの宇宙観と聖書的世界観 第4回 メディチ家に見るコレクション保護政策 第5回 マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容 第6回 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー 第7回 アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション 第8回 キルヒャーと「キルヒャー博物館」 第9回 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆 第10回 バロックにおけるヴンダーカンマーの瀟洒化 第11回 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体 第12回 ヴンダーカンマーと博物館の差異 第13回 シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見 第14回 ヴンダーカンマーと博物館 各価値観の止揚 第15回 総論・まとめ		
<準備学習等の指示> 事前にテキストを読み、また前回の内容を理解するために復習しておいてください。		
<テキスト> 愉悅の蒐集 ヴンダーカンマーの謎（小宮正安著 集英社新書）		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示します。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、およびレポートを総合的に見て評価します。		

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 2 音楽史 a		渡辺 善忠	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞通年の受講をお勧め致します。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。			
＜到達目標＞ 旧約聖書時代（ユダヤ教）から初代教会～宗教改革時代の教会にかけて、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。			
＜授業の概要＞ ユダヤ教～初代教会～1 6 世紀の教会の音楽史について、講義とCD鑑賞によって学びます。			
＜履修条件＞ 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。			
＜授業計画＞ 第1 回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等） 第2 回 旧約聖書時代の音楽①～古代から第一神殿時代にかけてのユダヤ教の音楽～ 第3 回 旧約聖書時代の音楽②～第二神殿時代のユダヤ教から初代教会にかけての音楽～ 第4 回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～ 第5 回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～ 第6 回 ミサ曲の成立と発展①～音楽史的側面～ 第7 回 ミサ曲の成立と発展②～礼拝様式との関わりについて～ 第8 回 オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～① 第9 回 オラトリオの成立と発展～聖書朗読からコンサート音楽へ～② 第1 0 回 レクイエムの成立と発展（1 5 世紀～現代） 第1 1 回 宗教改革直前の時代教会音楽 第1 2 回 宗教改革時代の教会音楽 第1 3 回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～ 第1 4 回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～ 第1 5 回 旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価			
＜準備学習等の指示＞ 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。			
＜テキスト＞ 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第1 回の講義でコピーを配布する予定です。 レジメ（要約）を毎回配りますので、レジメをパソコンに取り込んで授業ノートを取ることをお勧め致します。			
＜参考書・参考資料等＞ 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。			

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 2 音楽史 b		渡辺 善忠	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。			
＜到達目標＞ 宗教改革時代（16 世紀）から現代まで、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。			
＜授業の概要＞ 16 世紀から現代までの教会音楽史について、講義と CD 鑑賞によって学びます。			
＜履修条件＞ 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。			
＜授業計画＞ 第1回 旧約聖書時代の音楽～宗教改革時代の音楽（前期のまとめと後期への橋渡し） 第2回 J. S. バッハ 第3回 G. F. ヘンデル 第4回 F. J. ハイドンとM. ハイドン 第5回 A. モーツァルト 第6回 L. V. ベートーヴェン 第7回 F. シューベルト 第8回 F. メンデルスゾーン 第9回 J. ブラームス 第10回 F. シュミット 第11回 J. ラター 第12回 現代のキリスト教音楽と将来の展望 第13回 讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～ 第14回 讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～ 第15回 宗教改革運動が始まった時代から現代までのキリスト教音楽の発展と評価			
＜準備学習等の指示＞ 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。			
＜テキスト＞ 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第1回の講義でコピーを配布する予定です。 レジメ（要約）を毎回配りますので、レジメをパソコンに取り込んで授業ノートを取ることをお勧め致します。			
＜参考書・参考資料等＞ 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。			

学際基礎科目・社会科学系		
社会史 a	早川 朝子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 一般の人々の生きた社会を中心にヨーロッパ中世の歴史を学びます。		
<到達目標> ヨーロッパ中世の初期から末期までの大まかな歴史の流れと時代の特色を理解する。 ヨーロッパの中世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。		
<授業の概要> ヨーロッパ中世は、政治制度や行政組織だけでなく、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、聖人崇敬・巡礼など、人々の日常に関わる具体的な事柄をとり上げ、それぞれにみられるキリスト教の影響や中世の人々の考え方などを考察します。なお、とり上げる事柄は状況により変更する場合があります。		
<履修条件> 特にありません。		
<授業計画> 第1回 ヨーロッパ、中世、西暦について 第2回 中世前期のヨーロッパ社会とキリスト教 第3回 中世中期～後期のヨーロッパ社会とキリスト教 第4回 修道院 第5回 教会建築 第6回 聖人崇敬・巡礼 第7回 農村の生活 第8回 都市の成立と発展 第9回 結婚・家族・衣食住 第10回 教会暦と時間 第11回 知の復興と12世紀ルネサンス 第12回 死生観と救貧制度 第13回 ユダヤ人 第14回 病氣と医療 第15回 ヨーロッパ中世の「世界」		
<準備学習等の指示> 配付したプリントをよく見て復習してください。		
<テキスト> 指定しません。プリントを配付します。		
<参考書・参考資料等> 神崎忠昭『ヨーロッパの中世』（慶應義塾大学出版会、2015年）。 堀越宏一・甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2013年）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業の中で何度か復習を兼ねた練習問題を行います。そこでは、授業の内容について理解したことを自分のことばで、可能な限りの確かな文章表現を用いて書くことが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標」の①と②に関連します。練習問題への取り組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。		

学際基礎科目・社会科学系			
社会史 b		早川 朝子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 宗教改革を中心に近世ヨーロッパの歴史と社会について学びます。			
＜到達目標＞ 宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。 ヨーロッパの近世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。			
＜授業の概要＞ ルネサンスと宗教改革を経て「近代」の幕が開いたと言われてきました。このような捉え方は相対化されつつありますが、プロテスタントを誕生させた宗教改革が、ヨーロッパやキリスト教の歴史において重要な出来事であることに変わりはありません。この授業では、中世の時代にすでに起きていた教会改革を求める動きを概観したうえで、ドイツにおける宗教改革の展開、宗教改革が社会に及ぼした影響、他地域へ広まった宗教改革について学びます。ルネサンスの近代的な側面と、近世社会に依然としてみられた非科学的な側面についてもみていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。			
＜履修条件＞ 特にありません。			
＜授業計画＞ 第1回 1500年頃のヨーロッパ、近世について 第2回 ルネサンス 第3回 宗教改革史の概観 第4回 中世末期のキリスト教会と宗教改革の先駆者たち 第5回 マルティン・ルターと宗教改革 第6回 宗教改革前のドイツ 第7回 ドイツにおける宗教改革の展開 第8回 宗教改革思想の伝達：木版画 第9回 宗教改革を経た後の社会：信仰の分裂と改暦 第10回 ウルリヒ・ツヴィングリとスイスにおける宗教改革 第11回 再洗礼派の誕生とアーミッシュ 第12回 ジャン・カルヴァンの宗教改革とフランスの宗教戦争 第13回 イングランドにおける宗教改革 第14回 終末論・占星術 第15回 魔女狩り			
＜準備学習等の指示＞ 配付したプリントをよく見て復習するようにしてください。			
＜テキスト＞ 指定しません。プリントを配付します。			
＜参考書・参考資料等＞ ローランド・ベイントン著、出村彰訳『宗教改革史』（新教出版社、2017年）。 ティム・ダウリー著、青木義紀訳『地図で学ぶ宗教改革』（いのちのことば社、2017年）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業の中で何度か復習を兼ねた練習問題を行います。そこでは、授業の内容について理解したことを自分のことばで、可能な限りの確かな文章表現を用いて書くことが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標」の①と②に関連します。練習問題への取り組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。			

学際基礎科目・社会科学系		
法と人権 1 法学概論	松田 浩道	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 受講生の関心にあわせて「法と人権」に関する文献を読んでいます。映画や新聞記事なども利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と「法と人権」との関連を考えます。		
＜到達目標＞ 1. 法と人権に関して自分なりの視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題を「法と人権」の観点から考察できる。 3. 以上を踏まえ、牧師を目指す上で有意義な視点を得る。		
＜授業の概要＞ 受講生の関心にあわせて文献を選び、レジュメを作成して文献購読を行うことに加え、各自が気になった新聞記事等を持ち寄り、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。		
＜履修条件＞ 履修条件は特にありませんが、特に1年生の皆さんに照準を合わせた授業になる予定です。		
＜授業計画＞ 第1回：文献講読（1）人権の歴史的考察 第2回：文献講読（1）人権の理論 第3回：文献講読（1）人権の現代的課題 第4回：映画鑑賞とディスカッション 第5回：文献講読（2）正義の歴史的考察 第6回：文献講読（2）正義の理論 第7回：文献講読（2）正義の現代的課題 第8回：映画鑑賞とディスカッション 第9回：文献講読（3）自由の歴史的考察 第10回：文献講読（3）自由の理論 第11回：文献講読（3）自由の現代的課題 第12回：映画鑑賞とディスカッション 第13回：文献講読（4）平等の歴史的考察 第14回：文献講読（4）平等の理論 第15回：文献講読（4）平等の現代的課題 文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は初回授業で受講生と相談の上、決める予定です。		
＜準備学習等の指示＞ 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。		
＜テキスト＞ 教科書指定はありません。授業のなかで参考文献を紹介します。		
＜参考書・参考資料等＞ 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 文献の報告 50% ディスカッションへの参加 50% （期末レポートを提出した場合、加点対象とします。）		

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 2 日本国憲法		松田 浩道	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
日本国憲法			
<授業のテーマ>			
受講生の関心にあわせて日本国憲法に関する文献を読んでいきます。映画や新聞記事なども利用しつつ，現代社会で実際に生じている問題と憲法との関連を考えます。			
<到達目標>			
1. 日本国憲法に関して自分なりの視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題を憲法の視点から分析できる。 3. 以上を踏まえ，牧師を目指す上で有意義な視点を得る。			
<授業の概要>			
受講生の関心にあわせて文献を選び，レジュメを作成して文献講読を行うことに加え，各自が気になった新聞記事等を持ち寄り，毎回の授業でディスカッションを行う予定です。			
<履修条件>			
履修条件は特にありませんが，主に 1 年生の皆さんを念頭に置いた授業を予定しています。			
<授業計画>			
第 1 回：文献講読（1）立憲主義の歴史的考察 第 2 回：文献講読（1）立憲主義の理論 第 3 回：文献講読（1）立憲主義の現代的課題 第 4 回：映画鑑賞とディスカッション 第 5 回：文献講読（2）平和主義の歴史的考察 第 6 回：文献講読（2）平和主義の理論 第 7 回：文献講読（2）平和主義の現代的課題 第 8 回：映画鑑賞とディスカッション 第 9 回：文献講読（3）人権の歴史的考察 第 10 回：文献講読（3）人権の理論 第 11 回：文献講読（3）人権の現代的課題 第 12 回：映画鑑賞とディスカッション 第 13 回：文献講読（4）政教分離の歴史的考察 第 14 回：文献講読（4）政教分離の理論 第 15 回：文献講読（4）政教分離の現代的課題			
文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は受講生と相談の上，決める予定です。			
<準備学習等の指示>			
毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。			
<テキスト>			
教科書指定はありません。授業のなかで参考文献を紹介します。			
<参考書・参考資料等>			
森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館，2016）			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
文献の報告 50% ディスカッションへの参加 50% （期末レポートを提出した場合，加点対象とします。）			

学際基礎科目・自然科学系			
現代の自然観 a		松原 郁哉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 古典物理学とその発展にともなう自然観の変化を学ぶ。			
＜到達目標＞ (1)科学的なものの見方を身につける。(2)ニュートンの力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ガリレオやニュートンとキリスト教の関わりを理解する。			
＜授業の概要＞ 主に力学、熱学、波動の基礎とそれに関わる科学者について講義する。簡単な演習を行う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 力と運動(1)：速度と加速度 第2回 力と運動(2)：運動の法則 第3回 力と運動(3)：落下運動と放物運動 第4回 ガリレオの科学と宗教 第5回 力と運動(4)：等速円運動 第6回 力と運動(5)：万有引力 第7回 ニュートンの科学と宗教 第8回 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張 第9回 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量 第10回 熱とエネルギー(3)：可逆過程と不可逆過程 第11回 熱とエネルギー(4)：エントロピー増大則 第12回 波動(1)：波の種類と特性 第13回 波動(2)：波の重ね合わせと干渉 第14回 波動(3)：波動方程式 第15回 力学、熱および波動のまとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。			
＜テキスト＞ プリントを担当者が準備する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

学際基礎科目・自然科学系			
現代の自然観 b		松原 郁哉	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 現代物理学の考え方とその自然観を学ぶ。			
＜到達目標＞(1)現代物理学の考え方の特徴を説明できる。(2)量子力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ファラデーやアインシュタインと宗教の関わりについて理解する。			
＜授業の概要＞ 電磁気学、相対論、量子力学とそれに関わる科学者について講義する。簡単な演習を行う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 電気と磁気(1)：電荷と電場 第2回 電気と磁気(2)：電流と磁場 第3回 電気と磁気(3)：変動する電磁場 第4回 電気と磁気(4)：電磁波 第5回 ファラデーの科学と宗教 第6回 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速 第7回 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論 第8回 相対論(3)：アインシュタインの一般相対性理論 第9回 アインシュタインの科学と宗教 第10回 量子論(1)：エネルギーの量子化 第11回 量子論(2)：粒子・波動の2重性 第12回 量子論(3)：シュレディンガー方程式 第13回 量子論(4)：ベルの不等式 第14回 素粒子と宇宙 第15回 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。			
＜テキスト＞ プリントを担当者が準備する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

学際基礎科目・情報科学系		
情報基礎	竹井 潔	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 情報機器の操作	
<授業のテーマ> 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的なスキルを習得する。		
<到達目標> 学生がワープロソフト・表計算ソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。		
<授業の概要> 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの歴史と構造 第3回 OS とアプリケーション 第4回 情報モラルとセキュリティ 第5回 ワープロソフトの基本操作、タイピング 第6回 ワープロソフトの活用 基本的書式設定 第7回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 基本（フォントスタイル、書式等） 第8回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 応用（Smart Art, 図形等） 第9回 ワープロソフトの活用 レイアウト設定、表作成 第10回 表計算ソフトの基本操作 第11回 表計算ソフトの活用 表作成 第12回 表計算ソフトの活用 表計算 第13回 表計算ソフトの活用 グラフの作成 第14回 表計算ソフトの活用 データベースの作成、データの並べ替え等 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 授業中に必要に応じて指示する。 パソコンに慣れていない人はタイピングの練習をしておくこと。		
<テキスト> 授業中に指示する。		
<参考書・参考資料等> 定平誠『しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10, Office2019 対応版』技術評論社		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、期末課題（50%）		

神学基礎科目 A			
キリスト教通論 I		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。			
<到達目標> 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」（はじめに） 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」（前半） 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」（後半） 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」（前半） 第8回 「聖餐」（後半） 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」（前半） 第13回 「讃美歌の意味」（後半） 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。			
<テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』（第二版、東神大パンフレット38、2010年） 学生各自で用意すること			
<参考書・参考資料等> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。			

神学基礎科目 A			
キリスト教通論Ⅱ		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。			
＜到達目標＞ 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。			
＜授業の概要＞ 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。			
＜履修条件＞ 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業で取り扱う信仰の項目について、聖書の該当箇所を探してよく読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 1 旧約通論		田中 光	<担当形態> 単独
前期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書の基礎知識			
<到達目標> 旧約聖書を実際に読みながら、それに関する基礎的な知識を身に着ける。			
<授業の概要> 担当教員が、旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、適宜、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を皆で読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 カノン（正典）としての旧約聖書 第3回 モーセ五書① 創世記 第4回 モーセ五書② 出エジプト記 第5回 モーセ五書③ レビ記、民数記 第6回 モーセ五書④+申命記的歴史著作① 申命記、ヨシュア記、士師記 第7回 申命記的歴史著作② サムエル記、列王記 第8回 歴代誌的歴史著作 歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記 第9回 諸文学① ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉 第10回 諸文学② 雅歌、詩編 第11回 諸文学③+預言書① ルツ記、エステル記、イザヤ書 第12回 預言書② エレミヤ書、哀歌 第13回 預言書③ エゼキエル書、ダニエル書 第14回 預言書④ 十二小預言書① ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデア書、ヨナ書、ミカ書 第15回 預言書⑤ 十二小預言書② ナホム書、ハバクク書、ゼファニア書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書			
<準備学習等の指示> 次回の授業までに、該当する旧約聖書の書物を自分で読むこと。			
<テキスト> 聖書（聖書協会共同訳）			
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラス（本多峰子訳）『旧約新約聖書ガイド』教文館			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。レポートの課題は夏休み前に提示する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 2 旧約時代史		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探求			
<到達目標> 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史の知識を身に着けること。			
<授業の概要> 担当教員の作成したレジュメに基づいて講義を行う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第3回 カナン定着以前の時代：族長時代 第4回 出エジプト 第5回 カナン定着 第6回 統一王国の成立と分裂 第7回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第8回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第9回 南ユダ王国の歴史② 第10回 バビロン捕囚とペルシャ時代① 第11回 バビロン捕囚とペルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第12回 ヘレニズム時代 第13回 ローマ時代 第14回 まとめ＋中近東文化センター見学（予定） 第15回 知識の確認			
<準備学習等の指示> 学生はテキスト（以下参照）を予め読んだ上で授業に臨むこと。			
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局			
<参考書・参考資料等> マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス など。他にも幾つかのものを初回授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業のための準備の度合い、各回の発表、定期試験によって評価を行う。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 3 新約通論・歴史		焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 新約聖書を通読し、各文書成立の背景となる時代史を理解する。			
<到達目標> 新約聖書 27 文書の特徴とそれぞれの文書成立の時代背景を理解する。			
<授業の概要> 新約聖書 27 文書の背景、テーマ、研究史を概観し、新約聖書への理解を深める。			
<履修条件> なし。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト 1－20 頁 およびマルコによる福音書 第3回 テキスト 20－34 頁 およびマタイによる福音書 第4回 テキスト 35－47 頁 およびルカによる福音書 第5回 テキスト 49－60 頁 およびヨハネによる福音書 第6回 テキスト 61－74 頁 テサロニケの信徒への手紙一、二 第7回 テキスト 75－108 頁 コリントの信徒への手紙一 第8回 テキスト 108－129 頁 ガラテヤの信徒への手紙 第9回 テキスト 130－143 頁 ローマの信徒への手紙 第10回 テキスト 144－151 頁 コロサイ、エフェソの信徒への手紙 第11回 テキスト 152－169 頁 ヘブライ人への手紙 第12回 テキスト 184－198 頁 テモテの手紙一、二、テトスの手紙 第13回 テキスト 199－220 頁 使徒言行録 第14回 テキスト 221－232 頁 ヨハネ黙示録 第15回 総括 期末試験			
<準備学習等の指示> 毎回の講読箇所を予習してから授業に出席してください。			
<テキスト> 佐藤研『聖書時代史 新約篇』岩波文庫、2003 年。			
<参考書・参考資料等> 適宜指示します。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加と期末試験。			

神学基礎科目B			
神学通論		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部2年生と3年次編入生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。			
＜到達目標＞ ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。			
＜授業の概要＞ テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。			
＜履修条件＞ 学部2年生以上であること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 序—この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 Ⅰ. 霊的な務め・召命 第2回 Ⅱ. 神学と教会奉仕の準備／Ⅲ. 神学と信仰の従順 第3回 第2部 キリスト教神学 Ⅰ. 「神学」という言葉の意味／Ⅱ. キリスト教神学の従来の意味 第4回 Ⅲ. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 第5回 Ⅳ. 近代神学（1）—シュライエルマッハーの神学の概要 第6回 Ⅳ. 近代神学（2）—シュライエルマッハーの神学への評価 第7回 Ⅴ. 近代神学の歩み 第8回 Ⅵ. 新たな展開（1）—「近代神学」の「失敗」 第9回 Ⅵ. 新たな展開（2）—カール・バルトおよび「新しい神学」 第10回 Ⅵ. 新たな展開（3）—神の言葉の神学 第11回 Ⅶ. 神学と教会 第12回 Ⅷ. 神学の「学問的」性格（1）—「学問的神学」とは 第13回 Ⅷ. 神学の「学問的」性格（2）—神学と教会 第14回 Ⅸ. 神学諸科の分類 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ このクラスでは事前準備よりも復習が重要になる。また、耳慣れない言葉・概念・論理に出会うことになるので、授業中に積極的に質問すること。			
＜テキスト＞ G・プラスガー、『ハイデルベルク信仰問答との対話—信仰の宝を掘り起こす』、芳賀力訳（教文館、2019年）。			
＜参考書・参考資料等＞ 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009年）；フロマーカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012年）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標の①～④の内容を重視する。			

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I A a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読む、神学によく用いられる英単語のミニ・クイズなど）を行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、to 不定詞 第2回 to なし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞		
<準備学習等の指示> 復習（練習問題）をしっかりとやること		
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).		
<参考書・参考資料等> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version ）があれば望ましい。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修			
英語ⅠA b		田中 光	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英文法			
＜到達目標＞ 基礎的英語力の向上			
＜授業の概要＞ 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読む、神学によく用いられる英単語のミニ・クイズなど）を行う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現その他） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞			
＜準備学習等の指示＞ 復習（練習問題）をしっかりとやること			
＜テキスト＞ Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).			
＜参考書・参考資料等＞ 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version ）があれば望ましい。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I B a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。		
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。		
<授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.121-122 第3回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.122-123 第4回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.123-124 第5回 テキスト講読 Life and the Spirit pp.125-126 第6回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.49-50 第7回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.51-52 第8回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.53-54 第9回 テキスト講読 Prophecy and Proof pp.67-68 第10回 テキスト講読 Prophecy and Proof pp.69-70 第11回 テキスト講読 Prophecy and Proof pp.71-73 第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128 第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130 第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。		
<テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i> , London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I B b	須田 拓	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。		
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。		
<授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.26 第3回 テキスト講読 pp.27-28 第4回 テキスト講読 pp.28-29 第5回 テキスト講読 pp.29-30 第6回 テキスト講読 pp.30-31 第7回 テキスト講読 pp.31-32 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.32-33 第10回 テキスト講読 pp.33-34 第11回 テキスト講読 pp.34-35 第12回 テキスト講読 pp.35-36 第13回 テキスト講読 pp.36-37 第14回 テキスト講読 pp.37-38 第15回 テキスト講読 pp.38-39		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。		
<テキスト> Alistair McGrath, <i>Faith and Creeds</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013 テキストは担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I A a (1, 2) (初級)		長山 道	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語の初級文法を身につける。			
＜到達目標＞ 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。			
＜授業の概要＞ ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。			
＜履修条件＞ ドイツ語未習であることが望ましい。			
＜授業計画＞ 1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 3 動詞の現在人称変化(1) 4 定動詞の位置と文の構造 5 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 6 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 7 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 8 人称代名詞、疑問代名詞 9 前置詞の格支配 10 話法の助動詞 11 未来形 12 形容詞の格変化 13 動詞の3基本形 14 過去人称変化 15 完了形 16 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 17 分離動詞 18 命令形 19 再帰代名詞 20 再帰動詞 21 接続詞 22 副文 23 zu 不定詞句、非人称動詞 24 形容詞の比較 25 指示代名詞、関係代名詞 26 受動文、分詞 27 接続法第1式 28 接続法第2式 29 接続法の用法 30 総括 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。			
＜テキスト＞ Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013 (2500 円)。担当者を通して購入する。			
＜参考書・参考資料等＞ 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 ¹⁵ 2013 年。『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014 年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I A b (1, 2) (初級)		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学部1年生は必修。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、初級文法を定着させる。			
<到達目標> 神学用語に慣れ、初歩的な神学書が読めるようになる。			
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。			
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。			
<授業計画> 1 オリエンテーション 2 S. 1 3 S. 2 4 S. 3 5 S. 4 6 S. 5 7 S. 6 8 S. 7 9 S. 8 10 S. 9 11 Reformationstag 12 S. 10 13 S. 11 14 S. 12 15 S. 13 16 S. 14 17 S. 15 18 S. 16 19 S. 17 20 S. 18 21 S. 19 22 Advent, Weihnachten, Epiphanias 23 ドイツ語すごろく 24 S. 20 25 S. 21 26 S. 22 27 S. 23 28 S. 24 29 S. 25 30 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 必ず予習してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。			
<テキスト> Heinrich Schlier Über die Christliche Existenz, 同学社、1975年(440円)。担当者を通して購入する。			
<参考書・参考資料等> 授業内で必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修		
ドイツ語 I B a（コミュニケーション）	福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
前期・１単位	＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション	
＜授業のテーマ＞ 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。		
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。		
＜授業の概要＞ 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。		
＜履修条件＞ 学部 2 年に履修。		
＜授業計画＞ 第 1 回 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 第 2 回 十戒その他の重要な戒め 第 3 回 詩編に基づく祈り 第 4 回 聖書に基づく賛美の祈り 第 5 回 子供と共に祈る 第 6 回 日常の中の祈り 第 7 回 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 第 8 回 その他の様々な場面での祈り 第 9 回 ローゼンゲン(日々の聖句集)の使い方 第 1 0 回 カテキズム(ルター小教理問答) 第 1 1 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 第 1 2 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 第 1 3 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 第 1 4 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 第 1 5 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
＜テキスト＞ ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローゼンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。		
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I B b（コミュニケーション）		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。			
＜履修条件＞ 学部２年に履修。			
＜授業計画＞ 第１回 礼拝の言葉 第２回 アンダハトの言葉(家庭で) 第３回 アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 第４回 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 第５回 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 第６回 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 第７回 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 第８回 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 第９回 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 第１０回 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 第１１回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 第１２回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 第１３回 ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 第１４回 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 第１５回 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。			

現代語科目選択			
英語基礎 a		越智 さやか	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件>課された者が通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>中学卒業程度の英文法・英単語の知識を習得する。			
<授業の概要>中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。			
<履修条件>特になし			
<授業計画> 第1回品詞、名詞、代名詞 第2回肯定文・否定文・疑問文 第3回文型 第4回時制 第5回完了 第6回助動詞 第7回受動態 第8回不定詞 第9回動名詞 第10回分詞 第11回関係代名詞 第12回関係副詞 第13回比較 第14回接続詞 第15回まとめ			
<準備学習等の指示>毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト>金谷憲 総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑩』アルク ボビー・ヴォルゲマス&ジョニー・エレクソン・タダ『新版 とっておきのクリスマスキャロル』いのちのことば社フォレストブックス 以上、学生各自で購入する			
<参考書・参考資料等>授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。			

現代語科目選択			
英語基礎 b		越智 さやか	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件>課された者が通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>高校卒業程度の英単語・文法の知識を習得する。			
<授業の概要>『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、暗唱、暗写も行う。			
<履修条件>特になし			
<授業計画> 第1回 文の種類・文型 第2回 時制 第3回 完了 第4回 助動詞 第5回 受動態 第6回 不定詞 第7回 動名詞 第8回 分詞 第9回 分詞構文 第10回 関係代名詞 第11回 関係副詞 第12回 比較(1) 第13回 比較(2) 第14回 仮定法 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト>金谷憲 総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』アルク ボビー・ヴォルゲマス&ジョニー・エレクソン・タダ『新版 とっておきのクリスマスキャロル』いのちのことば社フォレストブックス 以上、学生各自で購入する			
<参考書・参考資料等>授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価(方法・基準)>小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。			

現代語科目選択			
日本語基礎 a		後藤 倫子	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ・レポートの書き方を中心に書く力の基礎を強化する			
<到達目標> ・自分の言葉で文章をまとめることができるようになる ・話し言葉と書き言葉の違いを把握し、使い分けることができるようになる			
<授業の概要> ・レポートを中心としたアカデミック・ライティングのための文法、表現を意識し、話し言葉と書き言葉を自在に使い分けられる力を養う。			
<履修条件> ・日本語を母語としない学生対象			
<授業計画> 第1回 単語を言い換える 第1課 書き言葉 第2回 単語を言い換える 第2課 和語と漢語 第3回 単語を言い換える 第3課 名詞化 第4回 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け 第5回 単語を言い換える 総合問題 第6回 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文 第7回 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念 第8回 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現 第9回 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈 第10回 意味を読み取って言い換える 総合問題 第11回 目的に応じた形式で書く 実践問題1 文献を引用する 第12回 目的に応じた形式で書く 実践問題2 発表スライドを作成する 第13回 目的に応じた形式で書く 実践問題3 インタビューの内容をレポートに書く 第14回 実践1 レポート作成 第15回 実践2 レポート発表 まとめ *なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う。			
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
<テキスト> 特になし。毎回プリントを配付する。			
<参考書・参考資料等> 必要な参考書・参考資料等は授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。			

現代語科目選択			
日本語基礎 b		後藤 倫子	＜担当形態＞ 単独
後期・ 1 単位		＜登録条件＞ 課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ・読解力を養い、レポートの書き方を中心に書く力を強化する			
＜到達目標＞ ・まとまりのある文章を読み、既存の知識と照らし合わせ、自分の考えをまとめることができるようになる ・レポートや論文にふさわしい文法・文型、語彙、文章を使い分けることができるようになる			
＜授業の概要＞ ・さまざまな分野の文章を毎回一つ取り上げて読み、内容理解、要約を行う。また、各自が作成したレポートを自己評価し、添削指導を通じて完成させる。			
＜履修条件＞ ・日本語を母語としない学生対象			
＜授業計画＞ 第 1 回 (文法) 自動詞・他動詞・受身 第 2 回 (文型) 文末表現の調整 第 3 回 (語彙) 辞書の危険性 第 4 回 (意味) 専門用語の選び方 第 5 回 (文章) 文の長さを読みやすさ 第 6 回 (文章) 指示詞による文の接続 第 7 回 レポートの基本的な書き方 意見と事実 第 8 回 レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 第 9 回 立場のある文章の書き方 第 10 回 先生宛の E メールの書き方 第 11 回 思考力を育てる① 詩を描く 第 12 回 思考力を育てる② 自分の見方を知る 第 13 回 思考力を育てる③ 発表 第 14 回 実践 1 レポート作成 第 15 回 実践 2 レポート発表 まとめ *なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う。			
＜準備学習等の指示＞ 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
＜テキスト＞ 特になし。毎回プリントを配付する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要な参考書・参考資料等は授業の中で教員が指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語Ⅱ a		高砂 民宣	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位		＜登録条件＞ 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
＜到達目標＞ ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
＜授業の概要＞ 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
＜履修条件＞ おもに学部2年生が対象。			
＜授業計画＞ 第1回 Chapter 1: The Literary Turn in Johannine Studies A Personal History pp.9-10 第2回 The Changing Shape of Scholarship on the Fourth Gospel p.11 第3回 The Gospel of John and the History of Religions pp.12-13 第4回 The Gospel of John and the History of Religions pp.14-15 第5回 The Gospel of John and the History of Religions pp.16-17 第6回 Reading the Gospel from a Social Perspective pp.18-20 第7回 Reading the Gospel from a Social Perspective pp.21-22 第8回 Literary Analysis of the Gospel pp. 23-25 第9回 Literary Analysis of the Gospel pp. 26-28 第10回 Literary Analysis of the Gospel pp. 29-30 第11回 A Dramatic Gospel pp.31-32 第12回 A Dramatic Gospel pp.33-34 第13回 A Dramatic Gospel pp.35-36 第14回 A Dramatic Gospel pp.37-38 第15回 A Dramatic Gospel pp.39-40 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
＜テキスト＞ Harold W. Attridge, <i>History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel</i> , Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語Ⅱb		高砂 民宣	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞ 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
＜到達目標＞ ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
＜授業の概要＞ 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
＜履修条件＞ おもに学部2年生が対象。			
＜授業計画＞ 第1回 Chapter 2: Encountering History John and History pp.42-43 第2回 John and History pp.44-45 第3回 John and History pp.46-47 第4回 John and History pp.48-49 第5回 John and History p.50 第6回 Transformative Encounters pp.51-52 第7回 Transformative Encounters pp.53-54 第8回 Transformative Encounters pp.55-56 第9回 Transformative Encounters p.57 第10回 Easter Recognitions pp.58-59 第11回 Easter Recognitions p.60 第12回 Easter Recognitions p.61 第13回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.62-63 第14回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.64-65 第15回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.66-67 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
＜テキスト＞ Harold W. Attridge, <i>History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel</i> , Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語実践Ⅰ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。			
第1回 Orientation 第2回 Harmony 第3回 Modesty 第4回 Reserve 第5回 Place, Situation 第6回 Lobbying 第7回 Form 第8回 Discipline 第9回 Craft 第10回 Way, Road 第11回 Reason 第12回 The Way of the Warrior 第13回 Training 第14回 Seeking the truth 第15回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。			
＜テキスト＞ 英和和英辞書。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語実践Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
外国語コミュニケーション			
<授業のテーマ>			
日常的に英語を使うこと。			
<到達目標>			
英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
<授業の概要>			
英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
<履修条件>			
特になし。			
<授業計画>			
英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。			
第1回	Orientation		
第2回	Feelings		
第3回	Personal Feelings		
第4回	Obligation, Duty		
第5回	Social Debt		
第6回	Inside and Outside, Social Circle		
第7回	True Feelings and Facade		
第8回	Loyalty		
第9回	Hierarchy		
第10回	Service		
第11回	Filial Piety		
第12回	Barriers		
第13回	The Gods		
第14回	Purification		
第15回	Final Evaluation		
<準備学習等の指示>			
テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。			
<テキスト>			
英和和英辞書。			
<参考書・参考資料等>			
必要に応じて授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価			
出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
ドイツ語Ⅱ a		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
前期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ この科目を履修することで、学生は神学的な諸概念と思考法に慣れ親しみ、自主的にドイツ語で神学書を読む力を習得する。			
＜授業の概要＞ 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。 前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第１回 序論 ユンゲルの著書への入門など 第２回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 第３回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 第４回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 第５回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 第６回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 第７回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 第８回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 第９回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 第１０回 Jüngel, 1-4. (頁数。以下同様。) 第１１回 4-11. 第１２回 43-48. 第１３回 48-52. 第１４回 52-58. 第１５回 58-65. 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
ドイツ語Ⅱb		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ 神学的な諸概念と思考法を習得する。			
＜授業の概要＞ ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第1回 Jüngel, 65-74.(頁数。以下同様。) 第2回 75-86. 第3回 86-97. 第4回 97-106. 第5回 106-114. 第6回 114-125. 第7回 126-143. 第8回 143-155. 第9回 156-169. 第10回 169-180. 第11回 180-190. 第12回 191-201. 第13回 201-209. 第14回 210-220. 第15回 221-234. 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他の資料は必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。			

保健体育科目		
体育 I	岡田 光弘	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	体育
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 宣教・教会活動に役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、および指導法の習得を目指します。		
<授業の概要> 主に身体活動を中心とした実技を行います。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法について学びます。		
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。		
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 第 2 回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1 第 3 回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2（同上） 第 4 回 ソフトボール 1 ＊東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 第 5 回 ソフトボール 2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 第 6 回 ソフトボール 3（基本ルールの理解、模擬試合） 第 7 回 ソフトボール 4（ノック練習、試合） 第 8 回 ニュースポーツ 1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 第 9 回 ニュースポーツ 2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 第 10 回 ニュースポーツ 3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 第 11 回 バドミントン 1（打ち方） 第 12 回 バドミントン 2（ルール・安全管理の理解） 第 13 回 バドミントン 3（試合） 第 14 回 バドミントン 3（指導法） 第 15 回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が 2/3 に満たない場合、成績評価の対象にしません。		

保健体育科目		
体育Ⅱ	岡田 光弘	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	体育
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。		
<授業の概要> 庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。		
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 コオーディネーション・トレーニングの理論と実践 第3回 硬式テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 第4回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー 第5回 フォアハンド・ストローク（トップスピン打法の習得） 第6回 バックハンド・ストローク、ミニゲーム 第7回 サービスとレシーブ 第8回 ダブルス・ゲーム 第9回 シングルス・ゲームとテニスのまとめ 第10回 ビンポン・卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 第11回 バックハンド・ショート（またはハーフボレー）（ドライブサーブとカットサーブ） 第12回 フォアハンド・ストローク（ドライブ打法の習得） 第13回 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 第14回 シングルスとダブルスの試合 第15回 シングルスとダブルスの試合		
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（改訂版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅰ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ 旧約緒論の総論と五書問題について考察する。			
＜到達目標＞ 旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。旧約聖書を学問的に考察することに慣れる。			
＜授業の概要＞ まず旧約聖書学研究史を学び、正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。その後、五書問題の諸問題について考察する。なお、申命記はⅡで扱う。			
＜履修条件＞ 旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。旧約聖書の通読は欠かせない。			
＜授業計画＞ 第１回 オリエンテーション 第２回 旧約聖書入門 第３回 近代の旧約聖書学研究史（19世紀のヴェルハウゼンまで） 第４回 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン～現代） 第５回 正典とは何か 第６回 旧約正典の形成史 第７回 正典と本文 第８回 本文伝承の歴史 第９回 古代語訳概観（ギリシア語訳、アラム語訳、シリア語訳など） 第１０回 モーセ五書批判（総論） 第１１回 モーセ五書批判（研究史の諸問題） 第１２回 ヤーウィスト 第１３回 エローヒスト 第１４回 祭司文書 第１５回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業を聴き、わからないことは質問すること。			
＜テキスト＞ 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を各自購入すること。			
＜参考書・参考資料等＞ レジュメと文献表を授業前に配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末に筆記試験を行い、それによって評価する。出席重視。共通評価指標（１）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅱ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ モーセ五書の第5の書である申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、さらに知恵文学と詩文学を学問的に考察する。			
＜到達目標＞ 五書と申命記的歴史の繋がり、また申命記的歴史と歴代誌的歴史の緊張関係を理解し、さらに知恵文学と詩文学の全体像を把握する。			
＜授業の概要＞ 申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、詩文学について、テキストに基づいて概観する。			
＜履修条件＞ 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 申命記的歴史の総論と研究史（M.ノート以前） 第3回 申命記的歴史の研究史（M.ノート以降） 第4回 申命記的歴史の諸文書（各論） 第5回 申命記の総論 第6回 申命記の各論 第7回 歴代誌的歴史の総論 第8回 歴代誌的歴史の各論 第9回 知恵文学の総論 第10回 ヨブ記 第11回 箴言とコヘレトの言葉 第12回 詩編の総論 第13回 詩編の各論 第14回 詩編以外の詩文学 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲を持って授業に臨むこと。			
＜テキスト＞ 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を用いる、なお、この中で扱われていない授業項目は、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』教文館が役に立つ。			
＜参考書・参考資料等＞ レジュメと文献表を授業前に配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅲ		田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
〔旧法〕宗教学			
〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）			
<授業のテーマ>			
預言者とは何かという問いを、具体的な旧約テキストとその研究史を考察することを通して、探究する。			
<到達目標>			
預言者についての本質的な理解を深めるとともに、預言書全般についての概説的知識を獲得する。			
<授業の概要>			
最初の数回で、預言者についての総論的知識を学び、その後、書物ごとに学びを深める。書物ごとの学びでは、その預言書の最近の研究状況の紹介、鍵となる神学的テーマについての考察などがなされる。			
<履修条件>			
旧約聖書神学Ⅰ履修済み、または並行して履修中であること。			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション：授業目的と授業計画の確認			
第2回 旧約「預言（者）」の諸相：歴史書、預言書における「預言」通観、及び預言書についての研究史概観			
第3回 イザヤ書①：緒論			
第4回 イザヤ書②：「メシア預言」について			
第5回 イザヤ書③：「僕の歌」について			
第6回 エレミヤ書①：緒論			
第7回 エレミヤ書②：「新しい契約」について			
第8回 エゼキエル書①：緒論			
第9回 エゼキエル書②：主の神殿の幻について			
第10回 十二小預言書①：緒論①（ホセア、アモス書）			
第11回 十二小預言書②：緒論②（上記以外の12小預言書）			
第12回 十二小預言書③：「メシア預言」について			
第13回 ダニエル書①：緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説			
第14回 ダニエル書②：ダニエル書のメシアニズム（？）について			
第15回 補論的考察：現象としての預言からカノン形成及びテキスト解釈としての預言への移行について			
<準備学習等の指示>			
授業毎に、その回に関係する聖書テキストを読み、また教科書の該当部分を読んでくること。			
<テキスト>			
左近淑（大住雄一編）『旧約聖書緒論講義』教文館。			
<参考書・参考資料等>			
B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> ; C. J. Sharp (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Prophets</i> ; J. Jeremias, <i>Theologie des Alten Testaments</i> ; その他、初回授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
授業への貢献と、期末レポートによって成績をつける。理由なく授業に三分の一以上欠席した場合は、レポートを提出できない。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。			
<到達目標> 釈義の手法の概略を学ぶ。旧約釈義のレポートを書けるようになる。			
<授業の概要> 釈義に関する入門的教科書を読み、釈義の方法論と必要な情報、知見を具体的にきちんと学ぶ。			
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 釈義とは何か 第3回 釈義について基本的な概念、用語 第4回 第1章1－7：釈義の全過程についての手引き（前半） 第5回 第1章8－11：釈義の全過程についての手引き（後半） 第6回 第2章1－4：釈義と原典本文（前半） 第7回 第2章5－12：釈義と原典本文（後半） 第8回 第3章1－4：説教のための釈義の簡潔な手引き（前半） 第9回 第3章5－7：説教のための釈義の簡潔な手引き（後半） 第10回 第4章1：釈義の参考図書（本文批評） 第11回 第4章2－3：釈義の参考図書（翻訳、文法） 第12回 第4章4－6：釈義の参考図書（語彙的な分析、様式、構造） 第13回 第4章7－8：釈義の参考図書（歴史的な文脈、文学的な分析） 第14回 第4章9－11：釈義の参考図書（聖書の文脈、神学、適用） 第15回 第4章12：釈義の参考文献（二次文献）			
<準備学習等の指示> 旧約釈義の教科書をきちんと読む。			
<テキスト> D.スチュアート（山吉訳）『旧約聖書の釈義』、教文館、2017年（3,500円）を用いる。			
<参考書・参考資料等> その都度、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と期末のレポートで評価する。理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 b		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 旧約釈義の手法を身に着ける。旧約釈義のレポートを書けるようになる。			
＜授業の概要＞ 前期で学んだ釈義の方法を、具体的な旧約テキストに適用して釈義を試みる。			
＜履修条件＞ 前期で学んだことを前提とするが、後期のみ履修も可能である。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 諸翻訳の読み比べ 第3回 イザヤ書 61 章 1－4 節のテキスト 第4回 その釈義 第5回 創世記 27 章 18－29 節のテキスト 第6回 その釈義 第7回 哀歌 3 章 16－33 節のテキスト 第8回 その釈義 第9回 エレミヤ書 23 章 18－29 節のテキスト 第10回 その釈義 第11回 ハバクク書 2 章 1－4 節のテキスト 第12回 その釈義 第13回 列王記上 19 章 1－18 節のテキスト 第14回 その釈義 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 毎回の授業に先立って、扱われるテキストをきちんと読み、どう解釈すべきかを考える。			
＜テキスト＞ 複数の日本語訳聖書。ヘブライ語聖書に基づいた説明をするが、ヘブライ語を未履修の者にも配慮する。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と学期末に提出していただく釈義レポートで評価する。理由なく三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅰ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） 〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 〔旧法〕宗教学 〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書神学の諸課題について学ぶ。			
＜到達目標＞ 新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようになる。			
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでは、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること			
＜授業計画＞			
第1回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？			
第2回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？			
第3回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究			
第4回 聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開			
第5回 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について			
第6回 新約聖書とは何か？ 旧約聖書について			
第7回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書			
第8回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書①正典とは？			
第9回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書②正典化プロセス			
第10回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について			
第11回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について			
第12回 福音書とは何か？ 福音と福音書			
第13回 福音書文学：福音書は伝記か？			
第14回 共観福音書問題1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説			
第15回 共観福音書問題2 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料などについて			
＜準備学習等の指示＞聖書を日頃からよく読むこと。			
＜テキスト＞旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくること。			
＜参考書・参考資料等＞樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、期末のレポート（および小テスト）に基づいてなされる。レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書神学Ⅱ	中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞ 新約聖書神学Ⅰと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	＜科目＞ 〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） 〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 〔旧法〕宗教学 〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）	
＜授業のテーマ＞ 新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。		
＜到達目標＞ 新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる。		
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでの学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。		
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。		
＜授業計画＞		
第1回 マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題		
第2回 マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開		
第3回 マルコ福音書：神学的諸問題		
第4回 マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題		
第5回 マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開		
第6回 マタイ福音書：神学的諸問題		
第7回 ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題		
第8回 ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開		
第9回 ルカ福音書：神学的諸問題		
第10回 ヨハネ福音書：歴史的諸問題		
第11回 ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開		
第12回 ヨハネ福音書：神学的諸問題		
第13回 ルカ文書について		
第14回 ヨハネ文書について		
第15回 まとめ		
＜準備学習等の指示＞新約聖書神学Ⅰの項目を参照		
＜テキスト＞旧・新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。		
＜参考書・参考資料等＞必要に応じて、クラスで指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、期末レポートを中心になされる。レポートにおいては、課題やテキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅲ		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞使徒パウロの伝道活動と神学に親しむ。			
＜到達目標＞コリントの信徒への手紙一を中心にパウロ神学全体を見通し理解する。			
＜授業の概要＞コリントの信徒への手紙一を一章ずつ読む。			
＜履修条件＞ギリシア語履修が終わっていること。			
＜授業計画＞ 第１回 使徒言行録によるパウロの伝道旅行 第２回 コリントー１章、１６章、全体概観 第３回 コリントー２章 第４回 コリントー３章 第５回 コリントー４章 第６回 コリントー５、６章 第７回 コリントー７章 第８回 コリントー８章 第９回 コリントー９章 第１０回 コリントー１０章 第１１回 コリントー１１章 第１２回 コリントー１２章 第１３回 コリントー１３章 第１４回 コリントー１４章 第１５回 コリントー１５章 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 各回講読箇所を予習してから授業に出席してください。			
＜テキスト＞ リチャード・ヘイズ『コリントの信徒への手紙一』現代聖書註解、日本基督教団出版局、２００２年。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業参加と期末試験。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 a	中野 実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス		
<到達目標> このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修すること。		
<授業計画>		
第1回 オリエンテーション：クラスの目標と課題について		
第2回 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について		
第3回 フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」		
第4回 ステップ1 歴史的脈略の概観		
第5回 ステップ2 章句の区切りの確認		
第6回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明		
第7回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。		
第8回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明		
第9回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化		
第10回 ステップ5 本文の確定：本文批評の説明		
第11回 ステップ5 本文批評の実際		
第12回 ステップ6 文法の分析：説明		
第13回 ステップ6 文法の分析：実践		
第14回 説教のための釈義とは？		
第15回 説教の準備について		
顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。		
<準備学習等の指示> 釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義は苦労して身につけるしか道はない！ギリシャ語新約聖書をコツコツ読む努力をすること、また教科書をよく読んで出席すること。		
<テキスト> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシャ語の新約聖書も毎回持参すること。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 b	中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。		
<到達目標> このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。		
<授業計画>		
第1回 フィーの教科書の続き、ステップ7 語の分析：その説明		
第2回 ステップ7 語の分析：その実践		
第3回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介		
第4回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例		
第5回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の特徴と形式について		
第6回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の修辭的分析について		
第7回 書簡の釈義、ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析		
第8回 書簡の釈義、ステップ11 文学的コンテキストの確定		
第9回 福音書の釈義、福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説		
第10回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学類型		
第11回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学的様式、伝承		
第12回 福音書の釈義、ステップ10 共観表の用い方		
第13回 福音書の釈義、ステップ11 史的イエス研究		
第14回 歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論		
第15回 まとめ		
<準備学習等の指示>新約聖書釈義 a の同項目を参照。		
<テキスト>新約聖書釈義 a の同項目を参照。		
<参考書・参考資料等>必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅰ（１・２）	中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・４単位	＜登録条件＞ギリシャ語Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞新約聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解力を養う。		
＜到達目標＞新約聖書ギリシャ語の基本文法を理解し、ギリシャ語新約聖書を正確に読む力を身につけることができる。		
＜授業の概要＞前期においては、まず基本文法の習得に努める。クラスでは、大貫隆「新約聖書ギリシア語入門」（岩波書店）を教科書として用いながら学びを進めていく。目標は、ギリシャ語新約聖書の読解にある。それ故、基本文法を学びながらも、ギリシャ語新約聖書テキストに慣れ親しむことにも注意を向けたい。		
＜履修条件＞ギリシャ語Ⅱと通年で履修していること。		
＜授業計画＞ 第１回 オリエンテーション 新約聖書を原典で読むとは？ 第２回 文字と発音 第３回 単語：音節、アクセント、句読点など。 第４回 動詞の活用について 第５回 動詞活用 直接法能動現在 第６回 名詞の変化 第１変化名詞 第７回 格と用法、第２変化名詞 第８回 定冠詞、第１、第２変化形容詞 第９回 第２変化の女性名詞、第１変化の男性名詞 第１０回 第３変化名詞、第３変化形容詞 第１１回 第３変化名詞続き、前置詞とその用法 第１２回 人称代名詞、後接辞と前接辞 第１３回 指示代名詞、強意代名詞 第１４回 中・受動相現在、能動相欠如動詞など 第１５回 本時称と副時称、能動相未完了過去 第１６回 中・受動相未完了過去、接続詞、否定詞、否定疑問文 第１７回 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 第１８回 能動相未来、中動相未来 第１９回 形容詞と副詞の比較、格の特殊用法 第２０回 能動相第１アオリスト 第２１回 中動相第１アオリスト 第２２回 能動相現在完了 第２３回 中・受動相現在完了 第２４回 過去完了 第２５回 受動相アオリスト 第２６回 受動相未来 第２７回 能動相現在分詞、中・受動相現在分詞 第２８回 能動相未来分詞、中動相未来分詞 第２９回 能動相アオリスト分詞、中動相アオリスト分詞 第３０回 受動相アオリスト分詞、受動相未来分詞		
＜準備学習等の指示＞暗記して身につけるべき課題の多い教科なので、予習、復習の時間をしっかり確保する。各自、学習グループを作るなどして、工夫することも大切。		
＜テキスト＞大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店。学生が各自クラス開始までに用意すること。		
＜参考書・参考資料等＞Nestle-Aland, <i>Novum Testamentum Graece</i> , または UBS 版 <i>Greek New Testament</i> を各自用意する。その他コンコルダンス、辞典については、クラスで適宜指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験などを通して、総合的に評価する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅱ	中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞ギリシャ語Ⅰと通年で履修する。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞新約聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解力を養う。		
＜到達目標＞前期から学んでいる基礎文法に基づいて、少しずつ実際にギリシャ語新約聖書テキストを読解できるようになる。		
＜授業の概要＞前期から始まっている基礎文法の学びを終わらせ、いよいよギリシャ語新約聖書テキストを読解するために必要な知識、方法を身につけることに注意を向けていく。		
＜履修条件＞ギリシャ語Ⅰを履修済みのこと。		
＜授業計画＞ 第1回 能動相現在完了分詞、中・受動相現在完了分詞 第2回 分詞の述語的用法、独立属格構文 第3回 母音融合動詞、流音幹動詞 第4回 不規則変化形容詞、接続詞とその用法 第5回 希求法 第6回 条件文 第7回 疑問代名詞、不定代名詞 第8回 関係代名詞、不定関係代名詞 第9回 不定詞 第10回 命令法 第11回 μι 動詞 第12回 数詞 第13回 固有名詞、小辞 第14回 読解へ向けて コンコルダンス、辞典について 第15回 まとめ		
＜準備学習等の指示＞暗記して身につけるべき課題の多い教科なので、予習、復習の時間をしっかり確保する。各自、学習グループを作るなどして、工夫をすることも大切。		
＜テキスト＞大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店。		
＜参考書・参考資料等＞ Nestle-Aland, <i>Novum Testamentum Graece</i> , または UBS 版 <i>Greek New Testament</i> を各自用意する。その他コンコルダンス、辞典については、クラスで適宜指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験などを通して、総合的に評価する。		

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅰ a		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 原則として組織神学Ⅰbと通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
＜授業のテーマ＞ 組織神学の中の教義学について扱う。			
＜到達目標＞ 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。前期は、序論（プロレゴメナ）から創造論までを扱う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 教義学とは何か 第3回 啓示論(1) 神をどのようにして知るのか 第4回 啓示論(2) 啓示について 第5回 啓示論(3) 聖書とは何か 第6回 啓示論(4) 聖書の正典性 第7回 神論(1) 三位一体の神 第8回 神論(2) 三位一体論の論点と三位一体論的神学について 第9回 神論(3) 神の本質と属性 第10回 中間総括 第11回 創造論(1) 創造について 第12回 創造論(2) 人間とその罪について 第13回 創造論(3) 創造のその他のテーマについて 第14回 創造論(4) 悪の問題と神義論 第15回 まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況と定期試験によって評価する。授業の進み方によっては、中間レポートを課す場合がある。評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学 I b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 原則として組織神学 Ia と通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 組織神学の中の教義学について扱う。			
<到達目標> 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。 後期は、キリスト論から終末論までを扱う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト論(1) キリストの人格について 第3回 キリスト論(2) キリスト論の方法と課題について 第4回 贖罪論(1) 贖罪とその諸類型 第5回 贖罪論(2) 三位一体論的贖罪論 第6回 救済論(1) 選び, 義認 第7回 救済論(2) 聖霊の働きと再生・聖化 第8回 中間総括 第9回 伝道論 人間の応答と伝道 第10回 教会論(1) 教会の本質と働き 第11回 教会論(2) 聖礼典について 第12回 終末論(1) 終末の表象 第13回 終末論(2) 現在的終末論と将来的終末論 第14回 終末論(3) 個人的終末論と社会的終末論 第15回 まとめ 定期試験			
<準備学習等の指示> その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。			
<テキスト> 特になし。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と中間レポート及び定期試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学Ⅱ a	芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	[旧法]「教理学、哲学」	
	[新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。		
<到達目標> キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。		
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、身体と生命をめぐる諸問題とその対処法を考察する。		
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。		
<授業計画>		
第1回 現代の状況（1）：自由至上主義 vs 共同体主義論争		
第2回 現代の状況（2）：道徳の断片化と情緒主義（A・マッキンタイアの問題提起）、功利主義的個人主義（R・ベラーの問題提起）		
第3回 現代の状況（3）：個と共同体、ニーバー、マクマリー、リースマン、情報化という新しい要素		
第4回 自然法と良心：自然法、良心（ルター）、道徳律（カント）		
第5回 良心と律法：自然神学論争：ブルンナーvsバルト、一般恩恵、特殊恩恵		
第6回 律法と福音：ルター派モデル、改革派モデル、バルト、エラート、アルトハウス		
第7回 義認と聖化：性格形成の倫理：ハワーワス、聖化の共同性（カルヴァン）、聖書のナラティブによる内的訓練		
第8回 召命と委託：創造秩序、保持秩序（キュネート）、委託の領域と召命（ボンヘッフアー）		
第9回 終末論と中間倫理：神の国の希望、神の国とキリスト者、神の国と教会		
第10回 身体と生命（1）：キリスト教的人間理解、SOLとQOL、生命の始期を巡る諸問題		
第11回 身体と生命（2）：生命の中期を巡る諸問題		
第12回 身体と生命（3）：生命の末期を巡る諸問題		
第13回 身体と生命（4）：キリスト教的自然理解、環境倫理、技術倫理		
第14回 身体と生命（5）：生への畏敬		
第15回 総括		
<準備学習等の指示>		
ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を明確に述べるように心がける。		
<テキスト>		
拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。参加者には著者割引で頒布する。		
<参考書・参考資料等>		
授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
出席を重視する。総括としてレポートを提出する。		

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
[旧法]「教理学、哲学」			
[新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。			
<到達目標> キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。			
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、労働と文化、結婚と家庭、国家と政治をめぐる諸問題とその対処法を考察する。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画>			
第1回 労働と文化（1）：古代ギリシアの労働観、聖書の労働観、中世の労働観			
第2回 労働と文化（2）：プロテスタンティズムの労働倫理、良き労働への問いと社会的エコロジー、技術時代の倫理			
第3回 労働と文化（3）：制約における自由、神への応答としての労働、正しい仕事			
第4回 労働と文化（4）：余暇と文化、観想の伝統と安息日の意義、良き文化の形成			
第5回 労働と文化（5）：賜物への畏敬			
第6回 結婚と家庭（1）：男と女、愛についての誤解、聖書における愛の思想			
第7回 結婚と家庭（2）：召命と形成としての結婚、結婚的人格、ポストブライダル・ストーリー			
第8回 結婚と家庭（3）：結婚の危機、危機における牧会、結婚の教會的意義			
第9回 結婚と家庭（4）：親と子、家庭の崩壊と再建の課題、家族形成におけるディシプリン、信仰の教育			
第10回 結婚と家庭（5）：愛への畏敬			
第11回 国家と政治（1）：家族から市民社会へ、中間集団の意義、キリスト教的共同体と市民共同体、近い者と遠い者（民族問題）			
第12回 国家と政治（2）：教権と王権、ルター派的二王国説、改革派的キリストの王権			
第13回 国家と政治（3）：教会と国家の類比的関連、教会と国家の目的論的関連、バルメン宣言の意義			
第14回 国家と政治（4）：国家論の諸系譜、力・正義・愛、人権思想の基本理念			
第15回 国家と政治（5）：正義への畏敬			
<準備学習等の指示>			
ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を明確に述べるように心がける。			
<テキスト>			
拙著『大いなる物語の始まり』教文館、2001年。			
<参考書・参考資料等>			
授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
出席を重視する。総括としてレポートを提出する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅲ b（後期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 弁証学、つまり、キリスト教信仰の真理性を理性的に論証することで、キリスト教信仰に対する批判に応えることを課題とする組織神学の（第三の）分野についての総合的な学びをする。			
<到達目標> ①弁証学という分野についての基礎知識を得る。②弁証学的な考えや発想を身に着ける。③現代日本における弁証学の構想を自分なりに考え始められるようになる。			
<授業の概要> Benno van den Toren の <i>Christian Apologetics as Cross-Cultural Dialogue</i> (London: T&T Clark, 2011)に準拠して講義を行なう。履修者は並行して各自で H・リチャード・ニーバーの『キリストと文化』（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）を読む。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みであること。また、弁証学は組織神学の応用編とも言えるので、履修者の主体的な思索が求められる。内容はやさしくないので、積極的に質問すること。			
<授業計画>			
第1回 I. 弁証学に対する二つの問題提起—— 1. 二つの問題提起／ 2. ポストモダン			
第2回 同—— 3. 弁証学の必要性①信仰と神学			
第3回 同—— 3. 弁証学の必要性②福音の普遍性			
第4回 同—— 4. 弁証学の定義／ 5. 概要			
第5回 II. 近代西洋の弁証学への批判—— 1. 基礎づけ主義の問題			
第6回 同—— 2. 言語の問題／ 3. 個人主義と集団主義の問題			
第7回 同—— 4. 総括			
第8回 III. 近代西洋の弁証学についての神学的評価—— 1. 近代批判の意義			
第9回 同—— 2. 近代以降の人間論			
第10回 同—— 3. 啓蒙主義と啓示の問題			
第11回 同—— 4. 実在からの疎外			
第12回 IV. キリスト教の人間論—— 1. 神の目的／ 2. 神のかたち（被造物の管理）／ 3. 神のかたち①（関係における存在）			
第13回 同—— 4. 神のかたち②（神との交わりにおける存在）			
第14回 同—— 5. 神のかたち③（信仰者でない者の場合）			
第15回 前期のまとめ			
<準備学習等の指示> 授業では、よくノートを取り、復習すること。			
<テキスト> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキスト（ニーバー）に関する課題のプリントを提出する（複数回）。テキストの理解度（共通評価指標の③）が重視される。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ b		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 前期と同じ。組織神学Ⅲ a（前期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
<授業のテーマ> 前期と同じ。			
<到達目標> 前期と同じ。			
<授業の概要> 前期と同じ。			
<履修条件> 前期と同じ。			
<授業計画> 第1回 V. 実在——1. 実在との接触 第2回 同——2. キリスト教的な知の理論 第3回 同——3. 神と救済についての知識 第4回 同——4. 啓示の証言としての弁証学 VI. 文脈の問題——1. 異文化の問題 第5回 同——2. 人間本性の探求 第6回 同——3. 異文化コミュニケーション 第7回 VII. 文化の壁を超える——1. 壁 第8回 同——2. キリストの光 第9回 同——3. 橋頭堡 第10回 同——4. 二律背反の意味 第11回 同——5. 教会 第12回 同——6. 総括 第13回 VIII. 心情の理由——1. 欲求・意志・理性 第14回 同——2. キリストの十字架 第15回 後期のまとめ			
<準備学習等の指示> 前期と同じ。			
<テキスト> 前期と同じ。			
<参考書・参考資料等> 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期と同じ。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅰ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕 宗教史	
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>		
第1回	ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界	
第2回	教会と国家：教会への迫害	
第3回	使徒教父たち	
第4回	弁証家たち	
第5回	正統と異端①：エイレナイオス	
第6回	正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス	
第7回	アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス	
第8回	コンスタンティヌス帝とキリスト教公認	
第9回	修道院運動	
第10回	キリスト論論争①：アレイオス主義とニカイア信条	
第11回	キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条	
第12回	カッパドキア三教父	
第13回	4～5世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニモス	
第14回	4～5世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学	
第15回	総括	
期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社） 2. W. ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社） 3. ブロック『古代教会史』（教文館）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅱ		本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
〔旧法〕宗教史			
〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教史）			
<授業のテーマ> 中世（アウグスティヌス後から宗教改革前まで）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。			
<到達目標> ①中世の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
<授業の概要> 中世の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画>			
第1回 ガイダンス、古代から中世へ			
第2回 中世初期の教会と伝道			
第3回 教会と国家①：神聖ローマ帝国の成立			
第4回 教会と国家②：西方教会と東方教会			
第5回 教会と国家③：叙任権闘争			
第6回 修道院運動①：修道院運動の展開			
第7回 修道院運動②：修道院の刷新運動			
第8回 十字軍			
第9回 修道院運動③：托鉢修道会			
第10回 教会と国家④：教皇権の絶頂			
第11回 スコラ神学①：初期（アンセルムスとアベラルドゥス）			
第12回 スコラ神学②：盛期（トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ）			
第13回 教会と国家⑤：教皇庁の衰退			
第14回 中世から宗教改革時代へ			
第15回 総括			
期末試験			
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 1. 出村彰『中世キリスト教の歴史』（教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅲ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕 宗教史		
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）		
＜授業のテーマ＞ 宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
＜授業の概要＞ 宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 宗教改革前史①：教会改革の必要性			
第2回 宗教改革前史②：エラスムスと人文主義			
第3回 ドイツの改革①：改革者ルター			
第4回 ドイツの改革②：ルターの神学			
第5回 ドイツの改革③：ルター派教会の形成			
第6回 スイスの改革①：ツヴィングリ			
第7回 再洗礼派			
第8回 スイスの改革②：カルヴァン			
第9回 カルヴァンの神学と改革派教会の形成			
第10回 改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論			
第11回 イングランドの改革			
第12回 スコットランドの改革			
第13回 諸信条・信仰告白・問答			
第14回 カトリック教会の改革			
第15回 総括			
期末試験			
＜準備学習等の指示＞ ノートを取り、講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社） 2. 出村彰『総説 キリスト教史2 宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅳ	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・２単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕 宗教史	
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 近現代（宗教改革後）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①近現代の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 近現代の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>		
第１回 ガイダンス、宗教改革から近現代へ		
第２回 正統主義①：英国国教会とピューリタン革命		
第３回 正統主義②：改革派教会とアルミニウス主義		
第４回 正統主義③：トリエント公会議後のカトリック教会		
第５回 正統主義④：ルター派教会と敬虔主義		
第６回 アメリカにおける教会①：植民地時代		
第７回 メソジスト運動		
第８回 アメリカにおける教会②：信仰復興運動		
第９回 アメリカにおける教会③：独立宣言から南北戦争		
第１０回 啓蒙主義（合理主義と経験主義）		
第１１回 18～19 世紀のヨーロッパの教会		
第１２回 プロテスタント神学①：自由主義神学		
第１３回 プロテスタント神学②：弁証法神学		
第１４回 20 世紀の教会		
第１５回 総括		
期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> １．栗林他『総説 キリスト教史 3 近・現代篇』（日本キリスト教団出版局） ２．J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。		

※本授業は学則第 12 条の 2 第 2 項適用の授業として、一部オンラインを用いて行います。

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅴ	小室 尚子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	[旧法] 宗教史	
	[新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ>		
日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。		
<到達目標>		
異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。		
<授業の概要>		
キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。		
<履修条件>		
<授業計画>		
第1回 序論：教会史を学ぶ意義		
第2回 キリスト教伝来前史		
第3回 キリシタンの歴史（1549～1873）		
第4回 キリシタンの教会形成		
第5回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開		
第6回 教会の形成期（1859～1912）		
第7回 （1）日本基督公会時代とその後		
第8回 （2）福音主義の理解		
第9回 （3）教育史における貢献と弾圧		
第10回 聖書の翻訳		
第11回 教会の発展期（1912～1926）		
第12回 教会の試練と解放（1926～現代）		
第13回 （1）戦時下、日本基督教団の成立		
第14回 （2）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題		
第15回 （3）日本の教会の課題		
<準備学習等の指示>		
テキストや配布史料をよく読み込むこと		
<テキスト>		
鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会		
『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館		
<参考書・参考資料等>		
初回授業時に文献表とともに紹介する		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
レポート（60％）と、授業への参加意識(40%)によって評価する		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
宗教史Ⅰ	棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	[旧法] 宗教史	
	[新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 「世界宗教史入門」。歴史神学の一分野である世界宗教史の研究方法・理論を学び、世界の諸宗教と文明生活の基礎知識を習得する。		
<到達目標> 学生は、①世界宗教史研究の基礎理論を学ぶ。②世界諸宗教の霊的生活を、各文明史の背景を踏まえ相関的に理解する思考を養う。③日本と世界伝道のために、宗教史の知識をどう活用したらよいかを考える。		
<授業の概要>学生は配布されたレジメと資料のコピーをもとに講義を聴く。並行して指定されたテキストを読み、講義の内容理解を深める。		
<履修条件>宗教史Ⅱを併せて履修し、日本と世界宗教の双方の知識を深めることが望ましい。		
<授業計画>		
第1回 宗教史を学ぶ意義について		
第2回 諸宗教の研究の歴史と研究の方法論の形成。本講義で採用するワック/エリアーデ複合理論について		
第3回 文明史的考察を踏まえた世界諸宗教理解の意義		
第4回 国家と宗教との関係に関する諸理論の紹介と意義		
第5回 世界の唯一神教（1） ユダヤ教の霊的生活と文明のなかの歴史		
第6回 同上（2） キリスト教（a） 正教会とローマ・カトリック教会の霊的生活と文明のなかの歴史		
第7回 同上（3） キリスト教（b） プロテスタント諸教会の霊的生活と文明のなかの歴史（ルター派教会；改革派教会；聖公会とメソジスト教会）		
第8回 同上（4） イスラム教 イスラム教の諸派の霊的生活と文明のなかの歴史		
第9回 世界の多神教（1） ヒンドゥー教の霊的生活と文明のなかの歴史		
第10回 同上（2） 南アジア、東アジアの仏教の霊的生活と文明のなかの歴史		
第11回 同上（3） 中国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史		
第12回 同上（4） 朝鮮・韓国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史		
第13回 同上（5） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（a）：神道と仏教、儒教		
第14回 同上（6） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（b）：キリスト教と諸宗教との関係		
第15回 まとめ		
定期試験		
<準備学習等の指示> 学生は、授業をよく聴き、質問をすること		
<テキスト> 岸本英夫 『世界の宗教』（原書房、2008		
<参考書・参考資料等> J.ヴァッハ、渡辺訳 『宗教の比較研究』（宝蔵館、1999）		
<学生に対する評価（方法・基準）> ①期末試験による考査。②到達目標の達成を重視。		

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
<到達目標> 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。			
<授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教を扱う。			
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。			
<授業計画> 第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を知る。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学			
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。			
<テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館 R. リシャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 b		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
＜到達目標＞ 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。			
＜授業の概要＞ 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。			
＜履修条件＞ 学部最終学年において履修のこと。			
＜授業計画＞ 第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、と、礼拝を礼拝にするものを考える。 第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。 第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。 第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。 第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。 第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。 第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。 第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。 第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。 第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。 第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。 第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。			
＜準備学習等の指示＞ 教室で配布される資料をていねいに読むこと。			
＜テキスト＞ 必要に応じて教室でプリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局 加藤常昭『慰めのコイノーニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 a	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年登録が望ましい。
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育の歴史を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論および歴史について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 キリスト教教育とは 第2回 信仰を教えることは可能か 第3回 教師としてのイエス（1）マルコによる福音書 第4回 教師としてのイエス（2）マタイによる福音書 第5回 福音伝道とキリスト教教育 第6回 キリスト教教育と道德教育 第7回 原始キリスト教における教育（1）パラドシス 第8回 原始キリスト教における教育（2）ケリュグマとディダケー 第9回 原始キリスト教における教育（3）パイディア 第10回 中世におけるキリスト教教育 第11回 宗教改革期におけるキリスト教教育（1）ルター 第12回 宗教改革期におけるキリスト教教育（2）カルヴァン 第13回 ピューリタンの時代におけるキリスト教教育 第14回 カテキズム教育（1）『大教理問答』『小教理問答』 第15回 カテキズム教育（2）『ハイデルベルク信仰問答』		
<準備学習等の指示> 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸形態について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育学の基本的な議論を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 カテキズム教育（3）『ウェストミンスター小教理問答』 第2回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（1）コメニウス 第3回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（2）フレーベル 第4回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（3）ペスタロッチ 第5回 創造と聖化 第6回 教会学校の歴史と意義 第7回 幼児洗礼 第8回 キリスト教幼児教育 第9回 キリスト教学校 第10回 青少年期のキリスト教教育 第11回 成人のキリスト教教育 第12回 高齢者のキリスト教教育 第13回 人格形成とキリスト教教育 第14回 礼拝と教育 第15回 家庭におけるキリスト教教育		
<準備学習等の指示> 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> NCC 教育部歴史編纂委員会編『日本における教会教育の歩み』教文館、2007 年。他は講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。		

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 a		田中 光	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞a, b 両方とも登録することが望ましい	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 詩編の多面的な側面からの解釈			
＜到達目標＞ 詩編を解釈の歴史や釈義などを通して包括的に理解し、聖書解釈の多面的な側面を理解する。同時に、後期の学部論文執筆のためのイメージを掴む。			
＜授業の概要＞ 最初の数回の授業では、詩編の解釈史、学問的研究の諸相について担当教員がレクチャーする。その後、今回の演習では「コラの子の詩編」（詩編 42-49; 84-89）を皆で講読し、注解書なども用いながら解釈について論じ合う。			
＜履修条件＞ ヒブル語の知識があることが望ましいが、無い方も歓迎する。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 詩編解釈の歴史① 詩編の形成、新約聖書、使徒教父、護教家 第3回 詩編解釈の歴史② 古代教父 第4回 詩編解釈の歴史③ 宗教改革者、17-20 世紀の解釈者たち 第5回 詩編解釈の歴史④ 現代における詩編解釈の諸相（方法論、死海写本、聖書翻訳他） 第6回 コラの子の詩編（詩編 42-49; 84-89）についてのイントロダクション+詩編 42 編講読 第7回 詩編 43 編講読 第8回 詩編 44 編講読 第9回 詩編 45 編講読 第10回 詩編 46 - 47 編講読 第11回 詩編 48-49 編講読 第12回 詩編 84 編 第13回 詩編 85 編 第14回 （詩編 86 編 - ）詩編 87 編 第15回 詩編 88 編			
＜準備学習等の指示＞ 初回授業にて詳しく指示するが、演習の授業なので、学生は講読の際には、テキストの内容（翻訳でも可）や注解書の議論を事前に把握しておくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。但し、聖書協会共同訳聖書は購入しておくことが望ましい。			
＜参考書・参考資料等＞ Susan Gillingham, <i>Psalms Through the Centuries</i> , vol.1-2（2008 - ）は、詩編解釈の歴史を知る上で参考になる。また、W. P. Brown (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Psalms</i> (2014)は、現代の学問的議論を把握する上で参考になる。いずれも、購入は義務ではない。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 b		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>a, b 両方とも登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 聖書学の論文の執筆			
<到達目標> 前期の学びから得たものを生かして自らの課題を見出し、それと取り組んで聖書学の方法論の枠組みの中で論文を作成する。			
<授業の概要> タイムテーブルの前半においては、論文執筆の方法等についてのレクチャーがなされる。後半においては、学生による論文発表を行い、担当教員が適宜アドヴァイスする。			
<履修条件> ヒブル語を履修していること。履修中でも可。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得 第3回 聖書学の論文の書き方② 文献の収集と文献の読み方について（図書館ツアー） 第4回 聖書学の論文の書き方③ 本文批評、聖書額の方法論について 第5回 論文執筆演習① 詩編 89 テキストの翻訳 第6回 論文執筆演習② 詩編 89 テキストの翻訳+テキストの解釈（注解書） 第7回 論文執筆演習③ 詩編 89 論文の読解 第8回 学生による発表① 論文の方向性（アウトライン） 第一グループ 第9回 学生による発表② 論文の方向性（アウトライン） 第二グループ 第10回 学生による発表③ 論文の中間報告① 第一グループ 第11回 学生による発表④ 論文の中間報告② 第二グループ 第12回 学生による発表⑤ 論文の中間報告③ 第一グループ 第13回 学生による発表⑥ 論文の中間報告④ 第二グループ 第14回 学生による発表⑦ 論文の中間報告⑤ 第一グループ 第15回 学生による発表⑧ 論文の中間報告⑥ 第二グループ			
<準備学習等の指示> 自分の論文のテーマを常に探究し、発表の準備を事前に行うこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia, ヘブライ語辞書、その他。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と発表、そして学部卒業論文によって評価する。欠席が3分の1を超えたものは論文を提出できない。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 a		焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>新約聖書学の方法と議論に親しみ新約聖書学の分野で論文を書く準備をする。			
<到達目標>新約聖書学の方法論を理解する。			
<授業の概要>論文を読み、釈義をする。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 『パウロの福音宣教と黙示思想』1章 第3回 『パウロの福音宣教と黙示思想』2章 第4回 『パウロの福音宣教と黙示思想』3章 第5回 『パウロの福音宣教と黙示思想』4章 第6回 『パウロの福音宣教と黙示思想』5章 第7回 『パウロの福音宣教と黙示思想』6章 第8回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ1-3 第9回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ4-6 第10回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ7-8 第11回 『イエスの死』1章 第12回 『イエスの死』2章 第13回 『イエスの死』3章 第14回 『これだけは知っておきたい史的イエス』1章 第15回 『これだけは知っておきたい史的イエス』2章 期末レポート			
<準備学習等の指示>毎回指定されている講読箇所、釈義を十分してから授業に臨むこと。			
<テキスト>上記3冊、可能ならば入手、あるいは図書館の指定図書を利用する。			
<参考書・参考資料等>適宜指定する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>毎回の授業参加と期末レポート。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 b		中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学部4年生	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 学部論文として釈義レポートを準備するためのクラス			
<到達目標> このクラスを通して、論文の書き方や釈義の方法、手続きを身につけることができる。			
<授業の概要> 論文の書き方を学びつつ、釈義を進めていく。一つの聖書テキストを共同で釈義し、それぞれが論文にまとめていく。			
<履修条件> 新約専攻者のみならず、ほかの学部4年生にも開かれている。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 一般的論文、レポートの書き方 第3回 釈義レポートの書き方 第4回 問題発見、問題設定 第5回 自らの問題意識を学問的に表現してみる 第6回 先行研究の発見 第7回 先行研究から学ぶ 第8回 釈義の手続き 第9回 注解書を読む 第10回 研究書を読む 第11回 テキストの選定 第12回 テキストの釈義 第13回 自らのテーゼを発見 第14回 見直し 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>とにかくコツコツ聖書テキストや研究書と取り組みながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。			
<テキスト>中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016年）			
<参考書・参考資料等>適宜紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>授業への参加度、努力、その実りとしての釈義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。			
<到達目標> 組織神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備			
<履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 与えられた課題を準備してくること			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 b		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 学部卒業論文を作成する。			
＜到達目標＞ 学部卒業論文を作成する。			
＜授業の概要＞ 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。			
＜履修条件＞ 前期と同じ			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半） 第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ） ＜第1サイクル＞（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第2サイクル＞（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第3サイクル＞（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第4サイクル＞（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表			
＜準備学習等の指示＞ 論文作成に積極的に取り組むこと			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 a		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の学習方法の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①歴史史料の扱い方、読み方を身につける ②歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける			
＜授業の概要＞ 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかんでいく。また、その過程で自分のテーマを設定し、史料を集め、史料を読み、学部論文作成のための素材を整えていく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス、歴史神学と歴史記述 第2回 テキスト1章「テーマ設定」 第3回 テキスト2章「一次史料」と「二次史料」 第4回 テキスト3章「史料の探し方」 第5回 「テーマ」の発表 第6回 テキスト4章「史料のまとめ方」 第7回 テキスト5章「史料の批判」 第8回 「一次史料」の発表① 第9回 「二次史料」の発表① 第10回 「二次史料」の発表② 第11回 テキスト6章「アウトライン」 第12回 「アウトライン」の発表 第13回 テキスト7章「書く」 第14回 テキスト8章「注と参考文献」 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 学部論文作成のための素材を整えていくことが目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。			
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
＜参考書・参考資料等＞ J.H.アーノルド『歴史』（新広記訳、岩波書店）、N.F.Cantor, R.I.Schneider, <i>How to Study History</i> . 他			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 b		本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 歴史神学の学部論文作成と、各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。			
<到達目標> ①歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける ②各個教会史などの歴史史料を批判的に評価できるようにする			
<授業の概要> 前期で行った内容（テーマ設定、一次史料読解、二次史料読解、アウトライン作成）を踏まえ、実際に学部論文を作成していく。また、将来牧師として教会史を執筆することを踏まえ、各個教会史を読み、論評することを行う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 ガイダンス、学部論文と教会史について 第2回 学部論文の中間発表① 第3回 学部論文の中間発表② 第4回 学部論文の中間発表③ 第5回 教会史作成のための史料 第6回 教会史と記念誌の論評 第7回 教会史・記念誌の発表① 第8回 教会史・記念誌の発表② 第9回 教会史・記念誌の発表③ 第10回 批評の仕方 第11回 学部論文の発表① 第12回 学部論文の発表② 第13回 学部論文の発表③ 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 学部論文作成が目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。			
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
<参考書・参考資料等> 土肥昭夫『各個教会史をどう書くか』（教文館）、他			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・聖書Ⅰ		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書学の研究書を講読し英語講読の力を養う。			
＜到達目標＞ 新約聖書学の研究書を読めるようになる。			
＜授業の概要＞ 講読をすすめる。			
＜履修条件＞ なし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション（英語辞書持参のこと） 第2回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.1 第3回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.2 第4回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.3 第5回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.4 第6回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.5 第7回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.6 第8回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.7 第9回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.8 第10回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.9 第11回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.10 第12回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.11 第13回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.12 第14回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.13 第15回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.14 定期試験 進度は受講者の関心によって適宜調整する。			
＜準備学習等の指示＞毎回予定にしたがって予習の上授業に参加してください。			
＜テキスト＞Victor Furnish, Theology of the First Corinthians, Cambridge University Press, 2008. 担当者が準備します。			
＜参考書・参考資料等＞毎回の授業に辞書と聖書を持参してください。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞通常の予習と授業内での講読、期末試験によって評価。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・聖書Ⅰ		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約/新約聖書神学の内、新約神学に関するドイツ語研究書の一書として P. Stuhlmacher の聖書学論文を読み合わせしていく。			
＜到達目標＞ 文法的に正確にテキストを読むことを踏まえて、聖書神学のドイツ語文章に習熟すること。内容的には、各章・節・パラグラフなど、著者の展開の仕方と主張点を把握する。			
＜授業の概要＞ 神の国運動を推し進めたイエスの宣教と、イエスをキリストと告げた原始キリスト教の宣教に関する論争を明らかにしつつ、その神学的意味と成果を確認する。			
＜履修条件＞ ドイツ語文法とドイツ語書物の講読の基礎的知識のある人			
＜授業計画＞ 第1回 地上のイエスを問う必要性和問題点 第2回 イエスの出現の年代表 第3回 イエスと洗礼者ヨハネ 第4回 神の子と神の支配 第5回 イエスの宣教と特徴的な諸形式 第6回 イエスの宣教における神の唯一性と救済実現 第7回 イエスの宣教における神の意志 第8回 メシア的な人の子ーイエスの主権要求 第9回 イエスの苦難準備と死の理解 第10回 イエス派遣の結果ー受難と十字架 第11回 ナザレのイエスとは誰か？ 第12回 死者の中からのイエスの甦り 第13回 キリスト告白の発達 第14回 初期キリスト教の形成 第15回 初期キリスト教の結束と宣教 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回読み合わせていくテキスト箇所を、受講者が事前に予習しておくこと。			
＜テキスト＞ Peter Stuhlmacher, Biblische Theologie des Neuen Testaments, Band 1, Grundlegung Von Jesus zu Paulus, Göttingen 1992. 各自が購入することを勧めるが、授業用に当該箇所をプリントによっても用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業時に随時紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 2/3 以上の出席を前提とし、読み合わせ時の邦訳作業によって評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし（学期毎で履修可）。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅰでは、比較的平易なものを読む。			
＜到達目標＞ ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。			
＜授業の概要＞ アメリカの組織神学者であるR・ジェンソンの晩年の講演に基づく組織神学概説を読む。1 センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。			
＜授業計画＞ Robert W. Jenson, <i>A Theology in Outline</i> (New York: Oxford University Press, 2016)から、 第5章（“Creation”）を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、pp. 52-53. 第3回 同、pp. 53-54. 第4回 同、p. 54. 第5回 同、pp. 54-55. 第6回 同、pp. 55-56. 第7回 同、pp. 56-57. 第8回 同、pp. 57-58. 第9回 同、pp. 58-59. 第10回 同、p. 59. 第11回 同、p. 60. 第12回 同、pp. 60-61. 第13回 同、pp. 61-62. 第14回 文法面についてのまとめ 第15回 内容面についてのまとめ			
＜準備学習等の指示＞ 予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の和訳の出来と小テストによる。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織Ⅱ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞特になし（学期毎で履修可）。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。			
＜到達目標＞ ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③（より高度な）テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。			
＜授業の概要＞ 組織神学の概説書から、神の存在についての議論を読む。1 センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。			
＜履修条件＞英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。			
＜授業計画＞ William J. Abraham, “The Existence of God,” in <i>The Oxford Handbook of Systematic Theology</i> , eds. John Webster, Kathryn Tanner, and Iain Torrance (Oxford: Oxford University Press, 2007), pp. 19-34 を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、pp. 19-20. 第3回 同、pp. 20-21. 第4回 同、pp. 21-22. 第5回 同、pp. 22-23. 第6回 同、pp. 23-25. 第7回 同、pp. 25-26. 第8回 同、pp. 26-27. 第9回 同、pp. 27-28. 第10回 同、pp. 28-29. 第11回 同、pp. 29-30. 第12回 同、pp. 30-31. 第13回 同、pp. 31-32. 第14回 同、pp. 32-33. 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の和訳の出来と小テストによる。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅰ		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学期ごとの登録も可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 終末論的希望をめぐって宗教改革と現代の神学との対話を試みる。			
<到達目標> ドイツ語の専門用語に慣れ親しみつつ、論じられている神学的事柄そのものを正確に把握する。			
<授業の概要> テキストを音読し、順番に訳していく。			
<履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.9-10. 第3回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.11-12. 第4回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.13-14. 第5回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.15-16. 第6回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.17-18. 第7回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.19-21. 第8回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.23-24. 第9回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.25-26. 第10回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.27-28. 第11回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.29-30. 第12回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.31-32. 第13回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.33-34. 第14回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.35-37. 第15回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.39-40.			
<準備学習等の指示> 辞書を小まめによく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。			
<テキスト> M.Freudenberg(Hrsg.), Christliche Hoffnung im Horizont der reformierten Theologie, Solingen:Foedus-verlag, 2017. こちらで用意する。			
<参考書・参考資料等> 特になし。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅱ		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学期ごとの登録も可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 終末論的希望をめぐって宗教改革と現代の神学との対話を試みる。			
＜到達目標＞ ドイツ語の専門用語に慣れ親しみつつ、論じられている神学的事柄そのものを正確に把握する。			
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。			
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
＜授業計画＞ 第1回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.41-42. 第2回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.43-44. 第3回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.45-46. 第4回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.47-48. 第5回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.49-50. 第6回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.51-52. 第7回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.53-54. 第8回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.55-56. 第9回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.57-59. 第10回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.61-63. 第11回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.64-66. 第12回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.67-69. 第13回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.70-72. 第14回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.73-75. 第15回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.76-77.			
＜準備学習等の指示＞ 辞書を小まめによく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。			
＜テキスト＞ M.Freudenberg(Hrsg.), Christliche Hoffnung im Horizont der reformierten Theologie, Solingen:Foedus-verlag, 2017. こちらで用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業での読解作業を評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織歴史Ⅰ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。学期毎の履修可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。			
＜到達目標＞ 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。			
＜授業の概要＞ ニカイア・コンスタンティノポリス信条とアタナシウス信条の成立史の理解を深める。1 センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。			
＜授業計画＞			
第1回 信条成立史の概要説明、テキストの説明（C.P.Arand, J.A.Nestingen, R.Kolb, <i>The Lutheran confessions : history and theology of The book of Concord</i> , Minneapolis : Fortress Press , 2012 の Chapter 1 (A History of the Ancient Creedal Texts) の pp.25-39)			
第2回 テキスト pp.25f			
第3回 テキスト pp.26f			
第4回 テキスト pp.27f			
第5回 テキスト pp.28f			
第6回 テキスト pp.29f			
第7回 テキスト pp.30f			
第8回 テキスト pp.31f			
第9回 テキスト pp.32f			
第10回 テキスト pp.33f			
第11回 テキスト pp.34f			
第12回 テキスト pp.35f			
第13回 テキスト pp.36f			
第14回 テキスト pp.37f			
第15回 テキスト pp.38f			
＜準備学習等の指示＞ 予習をしていくこと。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）で総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織歴史Ⅱ		本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特になし。学期毎の履修可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。			
<到達目標> 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。			
<授業の概要> 信条成立史（特に使徒信条）の理解を深める。1 センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。			
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。			
<授業計画> 第1回 使徒信条成立史の概要説明、テキストの説明（Schaff, Philip ed., <i>About Creeds of Christendom, with a History and Critical notes</i>. Volume I. The History of Creeds., CCEL, 1877）の Chapter 1. Creeds in General(pp.3-11)と Chapter 2. The Oecumenical Creeds の一部(pp.12-23)) 第2回 テキスト pp.3-5 第3回 テキスト pp.5f 第4回 テキスト pp.6f 第5回 テキスト pp.7f 第6回 テキスト pp.8f 第7回 テキスト pp.9f 第8回 テキスト pp.10f 第9回 テキスト pp.12-14 第10回 テキスト pp.14-16 第11回 テキスト pp.16-18 第12回 テキスト pp.18f 第13回 テキスト pp.19-21 第14回 テキスト pp.21f 第15回 テキスト pp.22f			
<準備学習等の指示> 予習をしてくること。			
<テキスト> 担当者が用意するプリント。			
<参考書・参考資料等> 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）で総合的に評価する。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅳ		左近 豊	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。			
<到達目標> 東日本大震災や COVID-19 による共同体の危機において、特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、学生が将来、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになる。			
<授業の概要> パンデミックを含めた災害や危難に直面した地域に建てられている教会の「とりなし祈り」の務めについて、旧約聖書の詩人たちの祈りに学ぶ。危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉、神に訴えるべき「嘆き」の言葉について探求する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する 第2回 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 第3回 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する 第4回 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する 第5回 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 第6回 聖書における崩壊期の思想について 第7回 日本の霊的生活における悲哀の思想について 第8回 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する 第9回 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する 第10回 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する 第11回 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する 第12回 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する 第13回 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する 第14回 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する 第15回 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する			
<準備学習等の指示> 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと			
<テキスト> ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） その他授業の中で指示する。			
<参考書・参考資料等> 各回レジュメに参考文献を挙げる。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加（発題・コメントシート） 60% 期末レポート 40%			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
ヒブル語Ⅰ（1,2）		本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独
前期・4単位		＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。			
＜授業の概要＞ 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。			
＜履修条件＞ 単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 1課 ヒブル語とは、文字（Alphabet）、書き方 第2回 1課 写字練習、写本文字(Codex Leningradsensis) 第3回 2課 母音記号（Vowel-signs） 第4回 3, 4課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 第5回 5, 6課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 第6回 7, 8課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 第7回 9課 定冠詞、形容詞（1）、接続詞（Conjunction） 第8回 9課（2） 第9回 10課 人称・指示代名詞（Pronoun）、関係代名詞（1）、疑問詞 第10回 11課 前置詞（Preposition）、目的辞（nota accusativi） 第11回 11課（2）人称代名詞語尾（Suffix）（1）：前置詞、目的辞付加形 第12回 12課 動詞：完了態（Perfect） 第13回 13課 未完了態（Imperfect） 第14回 14課 願望形（Jussive、Cohortative） 継続ウェアウ（Waw Consecutive）、従属ウェアウ 第15回 14課（2） 第16回 15課 命令形（Imperative）、不定詞（Infinitive） 第17回 15課（2）分詞（Participle） 第18回 16課 状態動詞 第19回 17課 名詞：語形変化、分類、独立形、合成形（Construct state） 第20回 17課（2）合成形、形容詞（2） 第21回 18課 名詞の変化（第一類）、不規則変化名詞 第22回 18課（2） 第23回 19課 名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有 第24回 20課 名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞 第25回 21課 人称代名詞語尾（2）-Ⅰ：名詞の～ 第26回 21課Ⅰ（2） 第27回 21課 人称代名詞語尾（2）-Ⅱ：動詞の～ 第28回 21課Ⅱ（2） 第29回 全体復習 第30回 総まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 予習大切。			
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）			
＜参考書・参考資料等＞ J.Weingreen, A Practical Grammar for Classicak Hebrew (Clarendon Press, Oxford)			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 小テスト、筆記試験で評価する。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
ヒブル語Ⅱ		本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。			
＜授業の概要＞ 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。			
＜履修条件＞ ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。			
＜授業計画＞ 前期より継続 第1回 22課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 第2回 23課 強意語幹：Piel、Pual、Hithpael 第3回 23課（2） 第4回 24課 使役語幹：Hifil、Hofal 第5回 24課（2） 第6回 25課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 第7回 26課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（2） 第8回 27課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 第9回 28課 数詞、年齢表記 第10回 29課 弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef、Pe Nun 動詞 第11回 29課（2） 第12回 30課 弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞30課 第13回 31課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 第14回 32課 二重弱動詞 第15回 総まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 予習大切。			
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近／本間）			
＜参考書・参考資料等＞ J.Weingreen, A Practical Grammar for Classicak Hebrew (Clarendon Press, Oxford)			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 小テスト、筆記試験で評価する。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
イスラエル古代史		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 最近の歴史学と考古学の知見を尊重し、旧約聖書のコンテキストである歴史について基本的知識を得る。			
＜到達目標＞ 旧約聖書の歴史を概観できるようになり、また旧約諸文書との関係を説明できるようになる。			
＜授業の概要＞ イスラエル古代史において決定的な意味を有する出来事を旧約聖書の記述に基づいて解説をする。また、それらに関する研究文献を紹介し、現在の研究状況も解説する。			
＜履修条件＞ 日本基督教団の補教師試験を受験する者で、聖書通論2旧約時代史を履修していない者は履修すること。			
＜授業計画＞ 第1回 原初史：地理的・歴史的前提、旧約伝承の信頼性 第2回 族長時代：その信憑性 第3回 出エジプト：どこまで歴史的か 第4回 土地取得：取得か征服か、農民革命か経済変動か 第5回 士師時代：アンフィクチオニーとは、イスラエルとは 第6回 統一王国：なぜ王国となったか、王国ははじめから一つであったか 第7回 北王国とその滅亡：北王国とは、サマリヤの起源 第8回 南王国とその滅亡：ダビデ王朝の基盤 第9回 アッシリアとバビロニア：二つの大国支配の特徴と意義 第10回 バビロン捕囚期：捕囚期とはどういう時代であったか 第11回 バビロン捕囚の意味と意義：捕囚によって何がどう変わったか 第12回 ペルシア時代：ユダヤ教団の成立、ユダヤ教とは何か 第13回 ヘレニズム時代：マカバイ戦争はなぜ起きたか 第14回 ユダヤ戦争まで：初期ユダヤ教か、後期ユダヤ教か 第15回 旧約聖書のイスラエルと現在のイスラエルは直結するか			
＜準備学習等の指示＞ 教科書をよく読むこと。レジュメを用意するが、主体的に学ぶ姿勢が必要である。			
＜テキスト＞ S.ヘルマン/W.クライバー（樋口訳）『よくわかるイスラエル史—アブラハムからバル・コクバまで』（教文館）、1600円を用いる。			
＜参考書・参考資料等＞ そのつど文献を紹介するが、山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』（岩波現代文庫）を推薦する。最もわかりやすい参考書は、樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』（教団出版局）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 期末レポートで評価をする。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅰ		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 編集史的読解により「マルコ」「マタイ」「ルカ」各福音書の神学的傾向と特徴を明らかにしていく。			
＜到達目標＞ 編集史を確立したといわれる小論文を読み、学問的傾向を理解する。			
＜授業の概要＞ 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語１、２を修得済みの者			
＜授業計画＞ 第１回 辞書、コンコーダンスの用法について 第２回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 第３回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 第４回 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 第５回 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 第６回 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 第７回 「バルテマいの癒し」読解 第８回 「バルテマいの癒し」読解とマルコの歴史的状況 第９回 「バルテマいの癒し」読解とマルコの神学 第１０回 「十字架」読解（マルコ） 第１１回 「十字架」読解（マタイ） 第１２回 「十字架」読解（ルカ） 第１３回 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ） 第１４回 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ） 第１５回 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ） 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。			
＜テキスト＞ ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamn in Tradition & Interpretation in Matthew, G. Bornkamn, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの参加あるいは試験による評価			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅱ		三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。			
<到達目標> 具体的なテキストにあたり、原典の読解力をつける。			
<授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。			
<履修条件> ギリシャ語１、２を修得済みの者			
<授業計画> 第１回 「盲人の癒し」読解（マルコ） 第２回 「盲人の癒し」読解（マタイ） 第３回 「盲人の癒し」読解（ルカ） 第４回 「悪霊追放」読解（マルコ） 第５回 「悪霊追放」読解（マタイ） 第６回 「悪霊追放」読解（ルカ） 第７回 「山上の変貌」読解（マルコ） 第８回 「山上の変貌」読解（マタイ） 第９回 「山上の変貌」読解（ルカ） 第１０回 「エルサレム入城」読解（マルコ） 第１１回 「エルサレム入城」読解（マタイ） 第１２回 「エルサレム入城」読解（ルカ） 第１３回 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 第１４回 「復活顕現」読解（マタイ） 第１５回 「復活顕現」読解（ルカ） 定期試験			
<準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。			
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）			
<参考書・参考資料等> 特になし			
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価			

※本授業は学則第 12 条の 2 第 2 項適用の授業として、一部オンラインを用いて行います。

専門教育科目選択・歴史神学関係			
宗教史Ⅱ		小室 尚子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
〔旧法〕宗教史			
〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教史）			
<授業のテーマ>			
日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。			
<到達目標>			
①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。			
<授業の概要>			
日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。			
<履修条件>			
<授業計画>			
第1回	序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点		
第2回	宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観		
第3回	日本人の世界観		
第4回	日本における宗教史概説		
第5回	日本人のカミ観念の形成		
第6回	仏教伝来と「神道」		
第7回	「習合」という形態		
第8回	日本仏教の形成とその特質		
第9回	中国の宗教の日本的展開		
第10回	民衆の宗教と「日本宗教」		
第11回	日本におけるキリスト教史概説		
第12回	日本人の精神的伝統とキリスト教		
第13回	日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（1）丸山正男、武田清子の分析から		
第14回	日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（2）三つの問題点（「神」理解、「贖罪」理解、「教会」理解）		
第15回	まとめ：日本の教会の課題と使命		
<準備学習等の指示>			
提示した参考文献や配布資料は事前に目を通しておくこと			
<テキスト>			
担当者がプリント教材・資料を用意する			
<参考書・参考資料等>			
初回授業において参考文献表を配布する			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
レポート（60%）と授業への参加意識（40%）によって評価する			

専門教育科目選択・実践神学関係			
教会実習Ⅰ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア			
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。			
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。			
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
＜授業計画＞ 1回目 オリエンテーション 2回目 現代的シンボル 3回目 世俗的シンボル 4回目 プロテスタントのシンボル 5回目 ユダヤ教のシンボル 6回目 正教会のイコン 7回目 カトリックのシンボル 8回目 動物のシンボリック役割 9回目 キリスト者のファッション 10回目 キリスト者の生活 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価			
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。			
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専門教育科目選択・実践神学関係			
教会実習Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア			
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。			
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全的な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。			
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
＜授業計画＞ 1回目 オリエンテーション 2回目 キリスト教建築 3回目 教会の調度品 4回目 聖職者の礼服、法衣、祭服 5回目 聖書翻訳 6回目 教会音楽と讃美歌 7回目 バプテスマの儀式 8回目 ユーカリストの儀式 9回目 教派 10回目 諸宗教のシンボルの比較 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価			
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。			
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
牧会心理学 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。		
<到達目標> 牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。		
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、逐語記録やケース・スタディーで実践的に学ぶ。		
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。		
<授業計画> 第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> インターネットでカウンセリングに関するビデオを見る。		
<テキスト> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ (2015)		
<参考書・参考資料等> “I am a Church Member”, <i>Thom S. Rainer</i> ; (B&H Books, 2013).		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提として、書評、ディスカッションへの参加 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
牧会心理学b		ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。			
<到達目標> ロールプレーを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。			
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。			
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
<授業計画>			
学習テーマ			
第1回	オリエンテーション		
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係
第15回	まとめ		
<準備学習等の指示> カウンセリングを受ける事の様子を考える。			
<テキスト> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ(2015)			
<参考書・参考資料等> “I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).			
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席を前提として、ロールプレーへの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。		
<授業計画> ＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 ＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 ＊各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
説教学入門 a		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。			
＜到達目標＞ 自分で説教を準備するための土台を身につけること。			
＜授業の概要＞ 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語初級履修済み、もしくは履修中であること。			
＜授業計画＞ 第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたしがいちばん伝えたいこと」 第4回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第5回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第6回 聖書を読む、朗読する 第7回 聖書朗読と説教 第8回 聖書に聞く、黙想する 第9回 聖書を読む、釈義する 第10回 聖書を語り直す 第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学 第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を読む 第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る			
＜準備学習等の指示＞ 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」を身につける。 説教準備の過程をたどっていくので、自分で実際に一つずつ行っていく。			
＜テキスト＞ 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教への道——牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局 平野克己『説教を知るキーワード』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業での発表、発言とレポート（説教または説教批評）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。			

専門教育科目選択・専攻間共同			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
＜到達目標＞ 東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
＜授業の概要＞ 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 1. 伝道論（宣教学）とは何か（講義） 2. 伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学（講義） （以下、3から14まで発表と討議、コメント） 3. 景教の東方伝道、韓国のキリスト教（初期カトリック史） 4. 韓国のキリスト教（プロテスタント史） 5. 中国のキリスト教（初期カトリック史） 6. 中国のキリスト教（プロテスタント史） 7. 台湾のキリスト教（16世紀～18世紀） 8. 台湾のキリスト教（19世紀～現代） 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. 総括 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
＜テキスト＞ 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985 年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000 字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専門教育科目選択・専攻間共同		
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましいが、半学期の履修も可能	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 南方アジア・キリスト教伝道の歴史と現実		
<到達目標> 南方アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。		
<授業の概要> アジアのキリスト教について解説し、その特質を把握した後、前期に続いて南方広域アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方をも自覚的に反省する素材となることを願う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 1. アジアのキリスト教の特色と課題 2. アジアのキリスト教における伝道論 (以下、3～14まで発表と討議、コメント) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 5. インドネシアのキリスト教（プロテスタント宣教） 6. インドのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 7. インドのキリスト教（プロテスタント宣教） 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して（講義） 定期試験		
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。		
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。		
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985 年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。 絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。		

専門教育科目選択・古典語			
ラテン語Ⅰ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 原則、通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ラテン語の基礎文法を習得する。			
＜到達目標＞ ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン教父を読むための基礎作りをする。			
＜授業の概要＞ テキストに即してUnit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 導入、J.F.Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 1 第2回 Unit 2, 3 第3回 Unit 4, 5 第4回 Unit 6 第5回 Unit 7 第6回 Unit 8 第7回 Unit 9 第8回 Unit 10 第9回 Unit 11 第10回 Unit 12 第11回 Unit 13 第12回 Unit 14 第13回 Unit 15 第14回 Unit 16 第15回 Unit 17			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、課題（テキストの練習問題）をやってくること。課題提出後に模範解答を配布してフィードバックを行う。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント（日本語訳）			
＜参考書・参考資料等＞ 小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』（中公新書、2006）、水谷智洋編『＜改訂版＞羅和辞典』（研究社）（各辞典については初回授業で説明する）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業での取り組みと毎回の課題提出で総合的に評価する。			

専門教育科目選択・古典語			
ラテン語Ⅱ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 原則、通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ラテン語の基礎文法を習得し、ラテン語の文章を読んでいく。			
＜到達目標＞ ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン語の信条、ラテン教父の文章を読むことができるようにする。			
＜授業の概要＞ テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。後半はラテン語聖書ウルガタ、ラテン語の信条の文章を読んでいく。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 J.F.Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 18 第2回 Unit 19 第3回 Unit 20 第4回 Unit 21 第5回 Unit 22 第6回 Unit 23 第7回 Unit 24 第8回 Unit 25 第9回 Unit 26 第10回 Unit 27 第11回 ラテン語の信条テキストを読む① 第12回 ラテン語の信条テキストを読む② 第13回 ラテン語聖書ウルガタを読む① 第14回 ラテン語聖書ウルガタを読む② 第15回 ラテン語聖書ウルガタを読む③			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、課題（テキストの練習問題）をやってくること。課題提出後に模範解答を配布してフィードバックを行う。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント（日本語訳）			
＜参考書・参考資料等＞ 水谷智洋編『＜改訂版＞羅和辞典』（研究社）、R.Gryson (ed.), <i>Biblia Sacra Vulgata</i> , Deutsche Bibelgesellschaft, Editio quinta(5 th ed.), 2007			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業での取り組みと毎回の課題提出で総合的に評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
宗教科教授法 B a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	<科目>		
	[旧法] 教育課程及び指導法に関する科目		
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
	[旧法] 各教科の指導法		
	[新法] 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<授業のテーマ>			
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。			
<到達目標>			
宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
<授業の概要>			
宗教科教師の独特の役割、宗教科授業が持つべき内容とカリキュラムの構造、授業の意味と方法を学ぶ。			
<履修条件>			
<授業計画>			
第1回 キリスト教教育論（その1）神学的人間論			
第2回 キリスト教教育論（その2）信仰と教育			
第3回 教師論（その1）聖書科教師と教務教師			
第4回 教師論（その2）聖書科教師の使命と役割			
第5回 聖書科授業の目標			
第6回 聖書科授業の主な内容と全体構造			
第7回 聖書科授業のカリキュラム			
第8回 聖書科授業における聖書と教材			
第9回 聖書科授業をどう評価するか 授業の展開			
第10回 授業の展開（その1）教理教育、道徳教育、問題中心の授業			
第11回 授業の展開（その2）聖書的授業、象徴教授法			
第12回 授業の展開（その3）文化形成			
第13回 授業の方法（その1）学習指導案の作成			
第14回 授業の方法（その2）神学諸科とのかかわり、教材の開発			
第15回 授業の方法（その3）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為			
<準備学習等の指示>			
公教育の中で聖書がいかに関力を発揮できるかを、創造的に考え続ける。			
<テキスト>			
聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。			
<参考書・参考資料等>			
『中学校学習指導要領解説』『特別の教科 道徳』文部科学省、最新版。			
『高等学校学習指導要領解説』『公民編』『福祉編』文部科学省、最新版。			
学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987年（絶版）			
『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991年（絶版）			
『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
期末のレポート(学習指導案)によって評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
宗教科教授法 B b		小泉 健
		<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> 通年で登録すること
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教育課程及び指導法に関する科目	
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕各教科の指導法	
	〔新法〕各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
<授業のテーマ>		
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。		
<到達目標>		
宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。		
<授業の概要>		
学習指導案の作成、模擬授業、その振り返りを行い、授業設計の向上に取り組む。		
<履修条件>		
<授業計画>		
第 1 回 授業の方法（その 4）情報機器の活用		
第 2 回 教材の活用と授業設計		
第 3 回 生徒の実態と授業設計		
第 4 回 模擬授業（その 1） 弟子になる（マタイ 4 章 18～22 節）		
第 5 回 模擬授業（その 2） 愛のおきて（マルコ 12 章 28～34 節）		
第 6 回 模擬授業（その 3） タレントを活かす（マタイ 25 章 14～30 節）		
第 7 回 模擬授業（その 4） パン五つと魚二匹（ルカ 9 章 10～17 節）		
第 8 回 模擬授業（その 5） 祈り（ルカ 11 章 1～13 節）		
第 9 回 模擬授業（その 6） 罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8 章 1～11 節）		
第 1 0 回 模擬授業（その 7） なお一つ欠けているもの（マルコ 10 章 17～31 節）		
第 1 1 回 模擬授業（その 8） 空の鳥、野の花（マタイ 6 章 25～34 節）		
第 1 2 回 模擬授業（その 9） 赦す（マタイ 18 章 21～35 節）		
第 1 3 回 模擬授業（その 1 0） クリスマス（ルカ 2 章 1～21 節）		
第 1 4 回 模擬授業（その 1 1） 十字架（マルコ 15 章 1～47 節）		
第 1 5 回 模擬授業（その 1 2） 復活（マルコ 16 章 1～8 節）		
模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。		
<準備学習等の指示>		
自分が担当する模擬授業のための指導案を計画的に準備しておく。		
<テキスト>		
聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。		
<参考書・参考資料等>		
『中学校学習指導要領解説』『特別の教科 道徳』文部科学省、最新版。		
『高等学校学習指導要領解説』『公民編』『福祉編』文部科学省、最新版。		
学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987 年（絶版）		
『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991 年（絶版）		
後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003 年。		
『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
授業中の模擬授業発表および授業への参加の度合い、内容で評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育基礎論	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教育の基礎理論に関する科目	
	〔新法〕教育の基礎的理解に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	〔新法〕教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
<授業のテーマ>		
教育の理念、教育に関する歴史、思想について理解し、基礎的な知識を身につける。		
<到達目標> 教育学の基本的概念を身につける。教育の歴史を理解する。教育思想史を理解する。現代における教育課題を理解する。		
<授業の概要> 教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。		
<履修条件>		
特になし。		
<授業計画>		
第1回	教育の本質と目的	
第2回	教育を成り立たせる要素とその関連	
第3回	古代ギリシアの教育観と学校教育	
第4回	中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷	
第5回	ルターの教育論と公教育	
第6回	近代教育制度の成立 ―コメニウスの教育論	
第7回	ロックの教育論と家庭教育	
第8回	ルソーの教育論と家庭教育	
第9回	カントの教育論	
第10回	教育と社会 ―ペスタロッチの教育論	
第11回	シュライアマハーの教育論	
第12回	幼稚園の成立 ―フレーベルの教育論	
第13回	ヘルバルトの教育論	
第14回	デューイの教育論と新教育運動	
第15回	現代社会における教育課題	
<準備学習等の指示>		
講義中に指示する。		
<テキスト>		
レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等>		
生徒指導提要（文部科学省）。他は講義中に紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
発表と学期末のレポートにより評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職概論		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 〔旧法〕 教職の意義等に関する科目 〔新法〕 教育の基礎的理解に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 〔旧法〕 教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等		
	〔新法〕 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 教職の役割と意義			
＜到達目標＞ 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
＜授業の概要＞ 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を問いつつ、教師に関する理解の歴史的変遷、組織、見識、教育課題などに分類して考察していく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第１回 日本における教員養成と採用 第２回 教師の仕事－授業をつくる 第３回 学級づくりの教師 第４回 学校の管理・運営を担う教師－組織・カリキュラムのマネジメント 第５回 教員の資質能力 第６回 諸外国の教員養成 第７回 教育課程の編成と学習指導要領 第８回 道德教育の意義と指導 第９回 特別活動の意義と役割 第１０回 社会性の指導 第１１回 教員研修および職務遂行のための生涯学習 第１２回 教員の職務上の義務と身分保障の認識 第１３回 教職の専門性とキリスト教学校の教師像 第１４回 「チームとしての私立学校」と家庭、地域との関係 第１５回 教職員の指導体制の充実（専門能力スタッフの参画、地域との連携など）			
＜準備学習等の指示＞ 毎回の授業において、前半は指定テキストの分担箇所の学生発表と意見交換がなされ、後半は担当講師の講義をする。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。			
＜テキスト＞ 南本長徳編著、『新しい教職概論』、ミネルヴァ書房、2016年。各自で入手すること			
＜参考書・参考資料等＞ １．佐藤学、『教師というアボリア＝反省的实践』、世織書房、1996年 ２．山崎・西村編著、『求められる教師像と教員養成』、ミネルヴァ書房、2005年 ３．日本教師教育学会 編、『教師とは』、学文社、2002年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育制度論		長山 道	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教育の基礎理論に関する科目		
	〔新法〕教育の基礎的理解に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
	〔新法〕教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について理解し、基礎的な知識を身につける。地域との連携、学校安全について、具体的な事例を踏まえて理解する。			
＜到達目標＞ 教育社会学、教育制度、教育に関する経営的事項についての基本的概念を身につける。学校と地域の連携の意義やその方法を理解する。学校安全への対応の目的や方法を理解する。			
＜授業の概要＞ 学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回	学校と社会		
第2回	子どもの生活と指導上の課題		
第3回	教育政策		
第4回	諸外国の教育事情1 ヨーロッパ、アメリカ		
第5回	諸外国の教育事情2 アジア		
第6回	公教育		
第7回	教育法		
第8回	教育行政		
第9回	教育制度をめぐる課題		
第10回	学校経営とは		
第11回	学校における教育活動		
第12回	学級経営		
第13回	組織としての学校		
第14回	学校と地域社会		
第15回	学校の安全		
＜準備学習等の指示＞ 講義中に指示する。			
＜テキスト＞ レジュメを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 学習指導要領（文部科学省）、生徒指導提要（文部科学省）。他は講義中に紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と学期末のレポートにより評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
心理発達と教育	森 真弓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教育の基礎理論に関する科目 〔新法〕教育の基礎的理解に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 〔新法〕 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
<授業のテーマ>		
人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい青年期までの発達課題と学習について学ぶ。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。		
<到達目標>		
学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。学生は、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達段階に応じた学習を支える指導についても基礎的な考え方を理解する。		
<授業の概要>		
乳児期では精神病理に、幼児期では土居健郎の甘え理論にもふれる。児童期の発達課題を学んだあとに、学習心理学関連の理論について学ぶ。第8回・第9回で学習についての代表的理論をおさえ、第10回以降は、思春期・青年期の発達課題を学びつつ、同時に、悩み多き怒涛の時代にいかんして主体的学習を確立していけばよいか、または若者の学習をどのようにリードしていけばよいかをライフイベントとからめながら学生と一緒に考えていく。 学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを2回に分けて実施する。		
<履修条件>		
特にない。		
<授業計画>		
第1回 心とは―――心を学ぶことの意義		
第2回 心理発達基礎理論(1)――エリクソン 他		
第3回 心理発達基礎理論(2)――フロイト、ピアジェ 他		
第4回 自分自身を知るⅠ―――エゴグラム他（心理テスト演習）		
第5回 乳児期―――クライン、精神病理・パーソナリティ障害 等		
第6回 幼児期―――マラー、甘え理論 等		
第7回 児童期―――児童期課題（勤勉性と劣等感 他）		
第8回 学習心理学関連Ⅰ―――記憶、動機づけ、思考と言語 等		
第9回 学習心理学関連Ⅱ―――集団づくり、社会的学習（バンデューラ）、教育評価（ブルーム）等		
第10回 思春期(1)―――乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する		
第11回 思春期(2)―――思春期の課題		
第12回 青年期(1)―――青年期のライフイベント、現代の青年		
第13回 青年期(2)―――キリスト者の心理特性、青年ルター		
第14回 自分自身を知るⅡ―――投影法・自己理解		
第15回 まとめ		
<準備学習等の指示>		
プリントを読み返し、次の授業までに、レスポンスペーパーに意見・感想等を書いておく。		
<テキスト> 授業中に資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1回）により評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
特別支援教育概論		森 真弓	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕該当せず		
	〔新法〕教育の基礎的理解に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕該当せず		
	〔新法〕特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
＜授業のテーマ＞			
発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について、支援に必要な知識や支援方法を学ぶ。			
＜到達目標＞			
学生は、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、将来、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために、必要な知識や支援方法を理解する。			
学生は、ASD、ADHD、LD のみならず、特別支援教育の対象である「視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等」の幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につける。			
＜授業の概要＞			
特別支援教育について、関連法案や現状について学ぶ。発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等について必要な知識や情報を身につけるために、学生による発表という形をとりながら、学んでいく。			
＜履修条件＞			
特にない。			
＜授業計画＞			
第１回 全体の概要と発表者の決定			
第２回 発達障害とは			
第３回 ASD について			
第４回 ASD の支援			
第５回 ADHD について			
第６回 ADHD の支援			
第７回 LD について			
第８回 LD の支援			
第９回 特別支援教育とは			
第１０回 特別支援教育コーディネーターと支援体制（含む個別指導計画と個別の教育支援計画）			
第１１回 通級による指導			
第１２回 知的障害と支援			
第１３回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱について			
第１４回 母国語や貧困の問題等			
第１５回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞			
プリントを読み返し、次の授業までに、レスポンスペーパーに意見・感想等を書いておく。			
＜テキスト＞			
授業時に資料を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞			
森マミ著『大人になった発達障害の仲間たち』（いのちのことば社、2019 年）（担当者が用意する）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
出席を前提とし、授業への参加状況、発表（１～２回）、レスポンスペーパーにより評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育課程・特別活動論		山口 博	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教育課程及び指導法に関する科目		
	〔新法〕教育の基礎的理解に関する科目		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕教育課程の意義及び編成の方法		
	特別活動の指導法		
	〔新法〕教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
	特別活動の指導法		
＜授業のテーマ＞			
「特別活動指導法」及びカリキュラム・マネジメントを含めた「教育課程の意義及び編成の方法」の内容を学ぶ。 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。			
＜到達目標＞			
受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。			
＜授業の概要＞			
学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。			
＜履修条件＞			
教職免許状取得希望者			
＜授業計画＞			
1. 序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）及び特別活動			
2. 学習指導要領の変遷			
3. 教育課程（カリキュラム）の意義と評価			
4. 教育課程（カリキュラム）の編成と現状			
5. キリスト教学校における教育課程（カリキュラム）			
6. カリキュラム・マネジメントの実施と評価			
7. 特別活動の目標			
8. ホーム・ルーム活動の意義と特質			
9. 学校行事の意義と特質、現状分析			
10. 学校礼拝の意義と特質（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す）			
11. 式典について			
12. 生徒会活動とクラブ活動について			
13. ボランティア活動と国際交流について			
14. 総合的な学習について			
15. 総括			
定期試験			
＜準備学習等の指示＞			
学校礼拝奨励等の原稿提出準備を課す			
＜テキスト＞			
『中学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う			
『高等学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う			
『中学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う			
『高等学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う			
＜参考書・参考資料等＞			
『キリスト教学校に勤めるということ』―現場の声― キリスト教学校教育同盟 監修			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
道徳指導法	菱刈 晃夫	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教育課程及び指導法に関する科目	
	〔新法〕道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕道徳の指導法	
	〔新法〕道徳の理論及び指導法	
<授業のテーマ>		
教職志望者にとって必要不可欠な、道徳教育に関する教育学的知識と実践的指導力の修得をテーマとする。		
<到達目標>		
道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
<授業の概要>		
道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について概説し、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。		
<履修条件>		
<授業計画>		
第1回：導入・「道徳」への問い。道徳とは、道徳教育とは。道徳教育の課題(いじめ・情報モラル)について。		
第2回：道徳の本質（１）「道徳」の語義について。		
第3回：道徳の本質（２）近代の「道徳について」。		
第4回：道徳の本質（３）現代の「道徳」について。いじめ・情報モラル等について。		
第5回：道徳教育(補足して宗教教育)の歴史について。		
第6回：学校教育のなかの道徳教育—学習指導要領など—（１）。		
第7回：学校教育のなかの道徳教育—道徳教育の指導計画など—（２）。		
第8回：中学生における道徳性の発達段階とその特徴。		
第9回：道徳の授業の基本型について。		
第10回：道徳授業の構想に基づく指導案の作り方について—教科書、読み物資料を用いた授業—。		
第11回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（１）。中学校１年生を中心に。予備学習として指導案作成・提出。		
第12回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（２）。中学校２年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。		
第13回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（３）。中学校３年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。		
第14回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（４）。中学校全学年より補足。予備学習として指導案作成・提出。		
第15回：道徳授業の創意工夫、そして総括。		
定期試験は実施しない。		
<準備学習等の指示>		
授業中に指示された箇所を予め読んでワークシートに要点を記し、授業後には振り返ってまとめておくこと。		
<テキスト>		
『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（最新版、文部科学省）。		
菱刈晃夫『教育にできないこと、できること—基礎・実践・探究—〔第４版〕』（成文堂、2018年）。各自で購入すること。		
<参考書・参考資料等>		
横山利弘監修『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』（ミネルヴァ書房、2017年）。その他の資料等は、授業中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
模擬授業および指導案作成の内容(40%)。レポート試験(30%)。平常点(30%)。なお平常点は、毎時間ごとのワークシートの記入状況を総合して判断する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育の方法と情報技術		竹井 潔	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教育課程及び指導法に関する科目		
	〔新法〕道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
	〔新法〕教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
＜授業のテーマ＞			
学生が教育の方法論や教育技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。			
＜到達目標＞			
学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。			
＜授業の概要＞			
教育の方法論や教育技術について理解する。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。			
＜履修条件＞			
パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。			
＜授業計画＞			
第１回	学習指導要領と教育方法		
第２回	授業での効果的な ICT 活用		
第３回	情報モラル：情報の取り扱い		
第４回	情報モラル：著作権、個人情報		
第５回	授業方法とアクティブラーニング		
第６回	グループワークの進め方（ブレインストーミング， KJ 法等）		
第７回	プレゼンテーションの方法と技術		
第８回	模擬授業のテーマ、内容の検討		
第９回	模擬授業の基本構成（プラン）の検討		
第１０回	模擬授業の進め方・方法の検討		
第１１回	模擬授業レッスンプランの作成		
第１２回	模擬授業の教材作成		
第１３回	模擬授業のリハーサル、効果的なプレゼンテーションの検討		
第１４回	模擬授業実施及び相互評価		
第１５回	模擬授業振り返り		
＜準備学習等の指示＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜テキスト＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞			
文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版）			
文部科学省「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
平常点（５０％）・提出物（５０％）			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育の方法と情報技術（中級）		竹井 潔	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教育課程及び指導法に関する科目		
	〔新法〕該当せず		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
	〔新法〕該当せず		
＜授業のテーマ＞			
学生が教育の方法論や教育技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。			
＜到達目標＞			
学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。			
＜授業の概要＞			
教育の方法論や教育技術について理解する。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。			
＜履修条件＞			
パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。			
＜授業計画＞			
第１回 学習指導要領と教育方法			
第２回 新しい価値を生み出していく創造的なアクティブラーニング活動			
第３回 創造的な課題形成の進め方			
第４回 課題探索、テーマ設定			
第５回 アイデア交流（情報収集）			
第６回 アイデアの再構成と評価（情報の分類・整理、評価）			
第７回 創造的課題の作成（企画立案）			
第８回 模擬授業のテーマ・内容検討			
第９回 模擬授業における教材作成検討			
第１０回 パソコンを利用した教材作成 プレゼンテーションソフトにおけるビジュアル表現			
第１１回 パソコンを利用した教材作成 図表、画像等			
第１２回 パソコンを利用した教材作成 アニメーション効果			
第１３回 模擬授業実施及び相互評価			
第１４回 模擬授業の振り返り			
第１５回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜テキスト＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞			
文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版）			
文部科学省「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
平常点（５０％）・提出物（５０％）			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
生徒・進路指導論		水口 洋	<担当形態> 単独
前期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	[旧法] 生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目		
	[新法] 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
	[旧法] 生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法		
	[新法] 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<授業のテーマ>			
生活指導・進路指導及びキャリア教育の学校教育における目的・内容・方法について理解を深め、より良い指導法と生徒との関わり方を探求する。			
<到達目標>			
生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を具体的に知る。現在の学校教育の中での問題点を理解する。聖書科教員としての生徒との関わり方を考察し、将来の実践に役立てる。			
<授業の概要>			
生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を知り、具体的な事柄や現場の出来事を通して、実際にキリスト教学校の教員となった時に、その教育を担う者として心すべき生徒指導・進路指導・生徒理解のあり方を考察する。			
<履修条件>			
教職課程履修者			
<授業計画>			
第 1 回 授業内容ガイダンス～生徒指導を可能にするもの			
第 2 回 生徒指導と教育課程①～授業を整える			
第 3 回 生徒指導と教育課程②～特別活動を通してのキャリア教育			
第 4 回 生徒指導と教育課程③～進路を見据えた総合的学習の展開			
第 5 回 生徒指導と教育課程④～道徳教育とキャリア教育			
第 6 回 生徒指導と教育課程⑤～自己実現を目指しての進路指導・キャリア教育			
第 7 回 生徒指導と進路指導・キャリア教育との相関関係			
第 8 回 生徒指導・進路指導とホームルーム担任			
第 9 回 魂に触れる指導（キリスト教学校の独自性）			
第10回 問題行動の理解と指導①～同質性が生む問題			
第11回 問題行動の理解と指導②～SNS の浸透と人間関係の変化			
第12回 問題行動の理解と指導③～発達障がいをもたらすもの			
第13回 問題行動の理解と指導④～自傷行為、摂食障害、引きこもり			
第14回 問題行動の理解と指導⑤～家庭の問題			
第15回 まとめと総括～未来へ向けての生徒指導とチーム力			
<準備学習等の指示>			
その都度、次週の準備を指示する。			
<テキスト>			
文部科学省「生徒指導提要」（最新版）			
文部科学省「中学校学習指導要領」（最新版）			
文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」（最新版）			
<参考書・参考資料等>			
水口洋「教育を考えるあなたに」（いのちのことば社） 他は授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
授業後小レポート３０％、授業内発表３０％、討議への参加１０％、最終レポート３０％を合計して評価。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育相談・総合的な学習の時間の指導法		水口 洋	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 〔新法〕道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 〔新法〕総合的な学習の時間の指導法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
＜授業のテーマ＞			
思春期の発達とその課題を知り、教師としての対応やカウンセリングマインドを持って接する際の問題点を知り、総合的な学習（探究）の時間の指導法を用いて、人間理解と具体的な対応力を身につけていく。			
＜到達目標＞			
①思春期・青年期の発達の課題を理解する。 ②生徒をわかろうとする心（カウンセリングマインド）を働かす現場の必要を理解する。 ③総合的な学習（探究）の時間の指導法を学び、それを用いての人間理解を深めていく。 ④カウンセリングの基礎理論及び知識の習得と教育相談の実際を学ぶ。			
＜授業の概要＞			
教育相談が成立するためには、教師と生徒の関係性が構築されていなければならない。教師が自分の準拠枠を外して生徒の心に寄り添うにはカウンセリングマインドを持って接することが大事とされる。生活指導とカウンセリングが車の両輪として、教師の人格の中に、学校という組織の中に矛盾なく存在するために、磨くべき知識と行動を学ぶ。学校に起こる現実問題を事例として「総合的な学習（探究）の時間」の指導法を用いて学び、実際の対応力を身につける。			
＜履修条件＞			
教職課程履修者			
＜授業計画＞			
第 1 回 カウンセリングの基礎知識①～生徒を理解する			
第 2 回 カウンセリングの基礎知識②～日本の学校教育と相談活動			
第 3 回 カウンセリングの基礎知識③～生徒をどう観るのか			
第 4 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理①～役割、目標、実施			
第 5 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理②～評価の方法とその留意点			
第 6 回 総合的な学習の時間を創造する①～総合的な学習の時間の内容と年間計画・単元計画の立て方			
第 7 回 総合的な学習の時間を創造する②～各教科・特別活動との連携の実際			
第 8 回 総合的な学習の時間を創造する③～教師の姿勢（ファシリテーターとしての役割）			
第 9 回 総合的な学習の時間を創造する④～主体的・対話的な授業展開の創造（演習１）			
第 1 0 回 総合的な学習の時間を創造する⑤～主体的・対話的な授業展開の創造（演習２）			
第 1 1 回 事例を通して考える①～不登校、いじめ			
第 1 2 回 事例を通して考える②～自傷、依存、摂食障害			
第 1 3 回 事例を通して考える③～暴力行為、非行			
第 1 4 回 事例を通して考える④～発達障害と愛着障害			
第 1 5 回 まとめと総括			
＜準備学習等の指示＞			
授業ごとに次週の授業の指示を行う。			
＜テキスト＞			
文部科学省「中学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総合的な探究の時間編」（最新版）			
＜参考書・参考資料等＞			
水口 洋「人生の季節の中で」（いのちのことば社） 他は授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
授業後の小レポート３０％ 授業内発表３０％ 討議への参加度１０％ 最終レポート３０％を合計して評価。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育実習Ⅰ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・5単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教育実習	
	〔新法〕教育実践に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕教育実習	
	〔新法〕教育実習	
<授業のテーマ>		
教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。		
<到達目標>		
聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。		
<授業の概要>		
キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。		
<履修条件>		
前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。		
<授業計画>		
1. 教育実習事前指導 4月19日（月）9時～16時		
教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。		
2. 実習校での教育実習		
3. 教育実習事後指導 12月6日（月）9時～16時		
全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。		
報告すべき内容については、あらかじめ通知する。		
事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。		
<準備学習等の指示>		
実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。		
事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。		
<テキスト>		
必要に応じてプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等>		
『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟		
『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟		
いずれも担当者が用意する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育実習Ⅱ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・3単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（高等学校）	
	<科目> 〔旧法〕教育実習 〔新法〕教育実践に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 〔旧法〕教育実習 〔新法〕教育実習	
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。		
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。		
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。		
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。		
<授業計画> 1. 教育実習事前指導 4月19日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 12月6日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。		
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職実践演習（中・高）		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・２単位		<登録条件> 教職課程の最終段階で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	〔旧法〕－		
	〔新法〕教育実践に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
	〔旧法〕教職実践演習		
	〔新法〕教職実践演習		
<授業のテーマ>			
教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。			
<到達目標>			
教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。			
<授業の概要>			
各自が自分で補うべきテーマを発見、設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。			
<履修条件>			
第１回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。			
<授業計画>			
第１回 教職課程の振り返りと課題の発見			
第２回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割			
第３回 カリキュラムの構想			
第４回 授業をする力			
第５回 教師としての話し方・聞き方			
第６回 聖書教育、道徳教育、こころの教育			
第７回 教会との協力			
第８回 生徒理解			
第９回 個々の子どもの特性や状況への対応			
第１０回 いじめや不登校への対応			
第１１回 学級経営			
第１２回 他の教職員との協力			
第１３回 保護者会、保護者への伝道			
第１４回 学校礼拝の形成			
第１５回 学校行事での役割			
<準備学習等の指示>			
毎回のテーマについて主体的に参加できるように準備する。発表の準備をていねいに行う。			
<テキスト>			
必要に応じて、授業時にプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等>			
これまでの教職課程の授業で用いた文献、ノート等がすべて参考資料となる。 発表に必要な参考資料については、個別に指導する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
演習における発表と参加によって評価する。共通評価指標（１）の④と⑤を重視する。			